

社会情報学科専門科目（平成31年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	摘要	開放
基礎科目			行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦	「ウェブデザイン入門」で読替	教養
			情報社会論	②	30	1	後期	高橋 知花		教養
			インターネット演習	②	30	1	前期	伊豆田義人		
			統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間社会と心理	40120		社会学	2	30	1	前期	庄司 貴俊	[日]と合同 8・9月開講	教養
	40135		社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		教養
	40140		地域社会学	2	30	1・2	後期	庄司 貴俊		教養
	40150		社会調査演習	2	30	2	前期	庄司 貴俊		
			環境社会学	2	30	1・2	後期	庄司 貴俊		教養
			社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
			集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40190		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位[国・英]は教養単位	教養	
40210		認知心理学	2	30	2	後期	清水 浩			
経済と経営分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	[日]は専門単位[国・英]は教養単位 連続2時限の受講をもって1回の授業となる	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		教養
	40330		ファイナンス演習	2	30	2	前期	鈴木 久美		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	平野 智久		教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	後期	()		教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	()		
			企業経営論	2	30	1	後期	()		
	40400		経営情報演習	2	30	2	後期	()		
メディア表現と情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同 「応用データ分析」で読替 2単位のみ、週1コマ（月曜1限）のみ	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40530		コミュニケーションデザイン論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40540		メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40560		グラフィックス演習	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		
	40571	40572	情報コミュニケーション	2	30	1・2	前期	伊豆田義人		教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		
			データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
	40611		プログラミング演習 1	2	30	2	前期	西川 友子		
	40612		プログラミング演習 2	2	30	2	後期	西川 友子		
40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子	教養		
基礎ゼミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦 () 鈴木 久美 小池 隆太 西川 友子	本年度開講せず 開講せず	
			基礎ゼミ二	2	30	1	後期			
			基礎ゼミ三	2	30	1	後期			
			基礎ゼミ四	2	30	1	後期			
			基礎ゼミ五	2	30	1	後期			
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期			
			基礎ゼミ七	2	30	1	後期			
専門ゼミ	40820		専門ゼミ一	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦 鈴木 久美 小池 隆太 伊豆田義人 西川 友子 清水 浩 比留間浩介	本年度開講せず 本年度開講せず	
			専門ゼミ二	4	60	2	通年			
			専門ゼミ三	4	60	2	通年			
	40840		専門ゼミ四	4	60	2	通年			
	40850		専門ゼミ五	4	60	2	通年			
	40860		専門ゼミ六	4	60	2	通年			
	40870		専門ゼミ七	4	60	2	通年			
	40880		専門ゼミ八	4	60	2	通年			
	40890		専門ゼミ九	4	60	2	通年			
40910		卒業研究	②		2					

(注) ○数字は必修単位、}○数字は選択必修単位

社会情報学科専門科目（令和2年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	概要	開放
基礎 科目	40010		行動科学概論	②	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40020		情報社会論	②	30	1	後期	高橋 知花		教養
	40031		ウェブデザイン入門	②	30	1	前期	伊豆田義人		
	40040		統計学入門	②	30	1	後期	鈴木 久美		教養
人間 社会と 心理	40110		社会学	2	30	1	前期	庄司 貴俊	[日]と合同 8・9月開講	教養
	40120		社会ネットワーク論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央		教養
	40135		地域社会学	2	30	1・2	後期	庄司 貴俊		教養
			社会調査演習	2	30	2	前期	庄司 貴俊		
	40150		環境社会学	2	30	1・2	後期	庄司 貴俊		教養
	40170		社会心理学	2	30	1	前期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40180		集合行動論	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
		社会心理学演習	2	30	2	前期	亀ヶ谷雅彦		教養	
	40200		政治心理学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	[日]は専門単位[国・英]は教養単位	教養
			認知心理学	2	30	2	後期	清水 浩		
経済と 経営 分析	40310		経済学入門	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	[日]は専門単位[国・英]は教養単位	教養
	40320		ファイナンス論	2	30	1・2	後期	鈴木 久美		教養
			ファイナンス演習	2	30	2	前期	鈴木 久美		
	40340		簿記会計演習	4	60	1・2	前期	平野 智久	連続2時限の授業をもって1回の授業となる	教養
	40350		電子商取引概論	2	30	1・2	前期	董 彦文		
	40360		情報セキュリティ論	2	30	1・2	後期	董 彦文		
	40370		経営学入門	2	30	1・2	後期	()		教養
	40380		経営情報論	2	30	1・2	後期	()		
	40391		企業経営論	2	30	1	後期	()		
			経営情報演習	2	30	2	後期	()		
メディア 表現と 情報	40511		メディア文化論	2	30	1・2	前期	小池 隆太	[国]と合同	教養
	40521		メディア表現論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
	40530		コミュニケーションデザイン論	2	30	1・2	後期	小池 隆太		教養
			メディア制作演習	2	30	2	前期	小池 隆太		教養
	40550		メディアリテラシー	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦		教養
	40561		応用データ分析	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		教養
	40571	40573	情報コミュニケーション	4	60	1・2	前期	伊豆田義人	連続2時限の授業をもって1回の授業となる	教養
	40581		データ分析入門	2	30	1・2	後期	伊豆田義人		
	40590		データベース概論	2	30	1	後期	西川 友子		
			プログラミング1	2	30	2	前期	西川 友子		
		プログラミング2	2	30	2	後期	西川 友子			
	40620		IT概論	2	30	1・2	前期	西川 友子		教養
基礎 ゼミ			基礎ゼミ一	2	30	1	後期		本年度開講せず	
	40720		基礎ゼミ二	2	30	1	後期	亀ヶ谷雅彦		
	40730		基礎ゼミ三	2	30	1	後期	()		
	40740		基礎ゼミ四	2	30	1	後期	鈴木 久美		
	40750		基礎ゼミ五	2	30	1	後期	小池 隆太		
			基礎ゼミ六	2	30	1	後期		開講せず	
	40770		基礎ゼミ七	2	30	1	後期	西川 友子		
専門 ゼミ			専門ゼミ一	4	60	2	通年		本年度開講せず	
			専門ゼミ二	4	60	2	通年	亀ヶ谷雅彦		
			専門ゼミ三	4	60	2	通年		本年度開講せず	
			専門ゼミ四	4	60	2	通年	鈴木 久美		
			専門ゼミ五	4	60	2	通年	小池 隆太		
			専門ゼミ六	4	60	2	通年	伊豆田義人		
			専門ゼミ七	4	60	2	通年	西川 友子		
			専門ゼミ八	4	60	2	通年	清水 浩		
			専門ゼミ九	4	60	2	通年	比留間浩介		
		卒業研究	②		2					

(注) ○数字は必修単位、}○数字は選択必修単位

講義科目名称：行動科学概論（40010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 行動科学の実証的研究法について理解する。 2. スタディスキル（大学での勉強の仕方）を身につける。
授業計画	<p>第1回 映像でみる行動科学</p> <p>第2回 アンケートを書こう</p> <p>第3回 文献を探そう</p> <p>第4回 レポートを書こう</p> <p>第5回 発表しよう</p> <p>第6回 条件付け</p> <p>第7回 行動科学とは何か</p> <p>第8回 統計ソフトを使ってみよう（HADで統計分析）</p> <p>第9回 統計ソフトを使ってみよう（Rで統計分析）</p> <p>第10回 実証的研究法を知ろう</p> <p>第11回 フィールドワークへ行こう</p> <p>第12回 実験をしよう</p> <p>第13回 研究計画を書こう</p>
授業概要	<p>行動科学の考え方、特にデータを集め、仮説を立て、分析するといった実証的研究法に焦点を当てて講義を行う。また、文献の探し方やレポートの書き方といった「スタディスキル（大学での勉強の仕方）」についても説明するので、授業中に出す作業課題を通して実践的に学んでほしい。</p> <p>本年度は13回の授業を実施し、残り2回は授業中に課すものに相当する課題研究等を活用する。遠隔授業期間中の課題と資料はOneDriveからダウンロードすること。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	レジュメをPDF形式で配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	社会科学や心理学の分野で卒業研究をまとめたい人や、将来、編入先の大学や会社などで、実験やアンケート調査、商品テストなどに携わりたい人に、この科目は役立つと思います。なお、データの分析法についてさらに深く学びたい人は、「統計学入門」「社会調査演習」「データ分析入門」「情報処理演習Ⅱ」などの科目も履修するといいでしょう。
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：情報社会論（40020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
高橋 知花			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①情報社会論における専門知識の習得を目指します。 ②私たちの身近にあるメディアが、社会や私たちにどのような影響を与えているのかを考えます。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：メディアは社会、人々にとってどのような存在か</p> <p>第2回 新聞、本、マンガ</p> <p>第3回 テレビ、ニュース、ドラマ</p> <p>第4回 映画</p> <p>第5回 電話、ケータイ、スマホ</p> <p>第6回 インターネット</p> <p>第7回 SNS</p> <p>第8回 メディアが社会にもたらしたもの：大衆社会、消費社会</p> <p>第9回 世論とマスコミ</p> <p>第10回 メディアが人々にもたらしたもの：つながり、コミュニケーション</p> <p>第11回 個人化</p> <p>第12回 メディアリテラシー</p> <p>第13回 メディアが持つ問題、可能性①</p> <p>第14回 メディアが持つ問題、可能性②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	メディアと社会・人々との関係を、社会的な視点から考えます。受講後の毎回のコメントシート意見を授業に取り入れ、学生の関心や理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃からメディアとの関わり方について考えること。
テキスト	なし。毎回資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	私たちの生活に欠かせないメディアという存在への理解や考えを深めましょう。
評価方法	毎回のコメントシート30%、試験70%
参考文献	参考文献は毎回提示します。
備考	学生の関心によって授業内容を少し変更する場合があります。

講義科目名称：ウェブデザイン入門（40031）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	授業の目的は、（ア）ホームページの記述言語htmlの基本を学習すること、（イ）htmlによるホームページの作法を習得すること、（ウ）実践的にウェブデザインの基本を理解すること、（エ）タイピング能力を上達させることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。授業システムの解説 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 ブラインドタッチの基本</p> <p>第3回 タイピングの訓練</p> <p>第4回 ウェブページの仕組み</p> <p>第5回 html5の基礎</p> <p>第6回 html5の基本的なタグ</p> <p>第7回 css3の基本的な事項</p> <p>第8回 html5とcss3との関係</p> <p>第9回 html5とcss3による制作</p> <p>第10回 ウェブページの基本的な構造の作成</p> <p>第11回 レイアウト作成の基本</p> <p>第12回 様々なレイアウトの作成</p> <p>第13回 ホームページの作成例</p> <p>第14回 サイトのひな形の作成</p> <p>第15回 期末課題(プロジェクト)の説明</p>
授業概要	授業でのタイピング訓練は最初の2回ほどのみで、それ以降は各自で放課後等の時間に与えられた長文を入力して宿題を提出する。Htmlおよびcssの学習においては、授業での解説ならびに実習課題のほか、理論・概念への理解を深めるための演習宿題が毎回出される。期末には自律的な問題解決能力の向上を目的とした制作プロジェクトが与えられる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目では社会で求められている様々なスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数である。
テキスト	適宜プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学習範囲が広く、課題が多いので、宿題の時間を確保しておいてください。特に、上記の「時間外学習」において、事後学習の時間の大部分はタイピング課題の作成に充てることになるので、事前経験の多少によりそれ以上の時間が必要となります。
評価方法	入力課題：13回 x 4点 = 52点。※未提出または未完成課題が一つ以上の場合、『入力課題=52点満点中0点』 授業課題：4回 x 4点 = 16点。 期末課題：32点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点
参考文献	初回に紹介する。
備考	

講義科目名称：統計学入門（40040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日常的に触れるデータの特性を理解し、データから情報を読み取り判断できるようにする。 2. 簡単な統計分析ができるようにする。
授業計画	第1回 はじめに 第2回 ヒストグラム 第3回 分布の中心をあらわす尺度 第4回 分布の散らばりをあらわす尺度 第5回 正規分布(1) 第6回 正規分布(2) 第7回 母集団と標本 第8回 母分散が既知の場合の信頼区間 第9回 母分散が未知の場合の信頼区間 第10回 検定概要 第11回 母分散が既知の場合の検定 第12回 母分散が未知の場合の検定 第13回 2種類のエラー 第14回 散布図と相関係数 第15回 総復習
授業概要	講義を主体とし、学習した統計手法について適宜練習問題を解く。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：授業前に前回までの確認（用語の確認・概念の定着）を行ってください。 復習：授業で学習したことの確認・知識の定着を行ってください。場合によっては計算練習などが必要です。（数学が得意な方は復習の必要はないかもしれませんが、数学が苦手な方は毎回1時間～2時間程度）
テキスト	鳥居泰彦（1994）『はじめての統計学』，日本経済新聞出版社（2,233円＋税） 初回授業までにさわらび（購買）に入荷をお願いしておきますが、事前に受講者数がわからないため、例年を大きく上回る受講希望者があった場合は売切れる可能性があります。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	初回の授業には必ず出席してください。 限られた時間で多くのことを学ぶので復習が必須です。 前回までの授業で行ったことを前提として進むので、理解していない（復習しない）と授業にまったくついていけなくなります。 電卓（ルートの計算機能必須）を利用します。
評価方法	期末試験（100％）
参考文献	数学が苦手な人用：小島寛之（2006）『完全独習 統計学入門』，ダイヤモンド社。 編入試験or編入後に統計が必要な人用：東京大学教養学部統計学教室編（1991）『統計学入門』，東京大学出版会。
備考	1回目の講義には必ず出席すること。

講義科目名称：社会学(社) (40110)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
庄司 貴俊			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 社会学に関する知識を身に付ける。 2. 社会で起こっているさまざまな事象について考える力を養う。
授業計画	<p>第1回 社会学とは何か：なぜ社会学はいろんなテーマを扱うの</p> <p>第2回 性差からみる社会：なぜ主婦の家事労働はタダなの</p> <p>第3回 性差からみる社会 続き：なぜ私ばかりお手伝いするの</p> <p>第4回 性差からみる社会 続き：なぜ同性愛に対して否定的な意見があるの</p> <p>第5回 意図せざる結果：なぜ資本主義は成立したの</p> <p>第6回 擬似環境：なぜ私たちは観光名所を巡るの</p> <p>第7回 予言の自己実現：なぜ予言は当たるの</p> <p>第8回 予言の自己実現 続き：なぜ「寝たきり老人」はいないの</p> <p>第9回 個人を取り巻く集団：なぜ不満を感じるの</p> <p>第10回 ラベリング論：なぜ少年犯罪は増えるの</p> <p>第11回 ダブルバインド：なぜ恋愛は成就しなかったの</p> <p>第12回 役割演技：なぜ審判は堂々としているの</p> <p>第13回 死：なぜ自殺は起こるの</p> <p>第14回 懐かしさ：なぜ昭和はよき時代と言われるの</p> <p>第15回 社会学まとめ：なぜ社会学は必要なの</p>
授業概要	電子メールを用いて動画を見てもたったり質問に答えたりしてもらいます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ニュースや新聞などを確認し、物事に対する自分の考えをしっかりとつこと。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	講義を通して、頭を柔らかくし、社会的な発想を身に付けていきましょう。 なお、遠隔講義の間は出席の確認については提出されたメールで判断します。質疑については、 syojisan_san@yahoo.co.jp まで連絡ください。課題の提出についても上記のアドレスに提出してください。
評価方法	確認テスト(20%)、課題研究(20%)、毎時授業への参加(60%) *毎時授業への参加とは、出席カードへの記入、投げかけられた質問への発言、小課題の提出などを指している。
参考文献	
備考	★初回講義日までに大学付与のアドレスに授業詳細を送るので確認してください。

講義科目名称：社会ネットワーク論（40120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
坂口 奈央			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本社会には、どんなネットワークが張り巡らされているのか。授業では、SNS、労働、災害、地域社会を軸に、社会問題を理解し、見抜く視点、自分なりの見解をもつこと。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 networkとは何かを考えるグループディスカッション</p> <p>第3回 中根千枝の「タテ・ヨコ」の関係性とは</p> <p>第4回 社会ネットワークの構造を分解する</p> <p>第5回 レポート作成</p> <p>第6回 災害とネットワーク① 「絆」は何を示したか</p> <p>第7回 災害とネットワーク② 「レジリエンス」</p> <p>第8回 災害とネットワーク③ 町内会が役に立つ？！</p> <p>第9回 グループディスカッション</p> <p>第10回 レポート作成</p> <p>第11回 コミュニケーションとは何か</p> <p>第12回 ソーシャルキャピタル①</p> <p>第13回 ソーシャルキャピタル②</p> <p>第14回 グループディスカッション</p> <p>第15回 レポート作成</p>
授業概要	最近取り上げられた新聞記事など社会問題を切り口とし、日本社会を巡るネットワークの現実と課題を取り上げる。また随時グループディスカッションを行う。
実務経験及び授業の内容	授業担当者は、元民放テレビ局報道部ならびにアナウンサー経験が13年ある。この実務経験を生かして、授業では、グループディスカッションとそこから学生自らが紡ぎだした知見と考えを、より新たな学びへの契機へと昇華させていく。
時間外学習	新聞記事を読み、今の社会の流れを自分なりにとらえるトレーニングを日々積み重ねてください。
テキスト	指定テキストなし。資料は、授業中に配布する
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業内で感じた問題意識や自分ならどんな取り組み方をしたいか、見解をレポート並びに発表をしてもらおう。また、随時発表や意見をのべてもらおう。他者への説得力ある話し方を身につけられるように。なお、遅刻は認めません。
評価方法	授業内に3回実施する課題小レポート、授業内での発言内容
参考文献	
備考	

講義科目名称：地域社会学（40135）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
庄司 貴俊			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 地域社会を成り立たせている住民の言動の意味を読み解く。 2. 地域社会が抱える問題などを深く分析する視点を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン：本講義のねらいと方針</p> <p>第2回 地域住民の言動について考えるための準備①：アナキズム研究を事例に</p> <p>第3回 地域住民の言動について考えるための準備②：ゾミア研究を事例に</p> <p>第4回 地域社会の事象を分析するための準備：はげ山の研究を事例に</p> <p>第5回 地域住民の言動に関する実践的分析 ローカル編①：ダム研究を事例に</p> <p>第6回 地域住民の言動に関する実践的分析 ローカル編②：山村研究を事例に</p> <p>第7回 地域住民の言動に関する実践的分析 グローバル編①：エチオピアの事例</p> <p>第8回 地域住民の言動に関する実践的分析 グローバル編②：ヤノマミを事例に</p> <p>第9回 地域社会と災害：災害研究を事例に</p> <p>第10回 被災地域へのフィールドワーク①：東日本大震災に関する研究を事例に</p> <p>第11回 被災地域へのフィールドワーク②：南三陸町と名取市の研究を事例に</p> <p>第12回 被災地域へのフィールドワーク③：名取市の研究を事例に</p> <p>第13回 被災者の想いをすくいとる大切さ①：手紙に関する研究を事例に</p> <p>第14回 被災者の想いをすくいとる大切さ②：夢に関する研究を事例に</p> <p>第15回 まとめ：地域社会学の重要性について</p>
授業概要	パワーポイントを使い、クイズや模擬的実習を踏まえつつ講義を進めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	ニュースや新聞などを通して、地域住民の言動について関心を持つようにする。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	地域社会を成り立たせている住民の言動には深い意味がある。研究者らが扱ったさまざまな事例を通して、地域社会で暮らしていくための人びとの工夫／地域住民にみられる多様性などを学んでいきましょう。
評価方法	確認テスト（36％）、毎時授業への参加（64％） *毎時授業への参加とは、出席カードへの記入、投げかけられた質問への発言、ディベートの場での発言、小課題の提出などを指している。
参考文献	
備考	

講義科目名称：社会調査演習（40140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
庄司 貴俊			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 社会調査に必要な知識を習得する。 2. 報告書の作成や発表など実践的な力を養う。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：講義の進め方について</p> <p>第2回 事例研究に学ぶ①：幽霊現象と慰霊碑</p> <p>第3回 事例研究に学ぶ②：震災遺構と墓石</p> <p>第4回 事例研究に学ぶ③：孤立する者と埋葬する者</p> <p>第5回 事例研究に学ぶ④：被災地の消防団と猟師</p> <p>第6回 課題を決める①：テーマの設定</p> <p>第7回 課題を決める②：問いの設定</p> <p>第8回 課題を詰める①：文献調査</p> <p>第9回 課題を詰める②：フィールド調査</p> <p>第10回 課題を詰める③：補足調査</p> <p>第11回 報告書を作る①：枠組みの設定</p> <p>第12回 報告書作る②：流れの設定</p> <p>第13回 報告書作る③：自分の考えを文章で表現する</p> <p>第14回 報告書作る④：分かりやすい表現へ</p> <p>第15回 まとめ：報告書発表</p>
授業概要	zoomを使用しできるだけ双方向の講義をする。 質疑や課題については、syojisan_san@yahoo.co.jpまで送ってください。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	課題の報告・提出の準備および講義時のコメントへの対応を行うこと。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	関連する科目として、社会学・地域社会学・環境社会学のいずれかを履修済みであることが望ましい。自分がどんなテーマに関心があるのかを、初回の講義時に確認する予定なので、各自関心のあるテーマを明確にし講義に臨むこと。なお、講義自体はコロナの影響を踏まえ、本読みに専念することにする。
評価方法	課題研究（20%）、毎時授業への参加（80%） *毎時授業への参加とは、講義中に投げかけられた質問への発言、ディベートの場での発言、課題の提出などを指している。
参考文献	
備考	★初回講義日までに大学付与のアドレスに授業詳細を送るので確認してください。

講義科目名称：環境社会学（40150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
庄司 貴俊			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 環境社会学に関する知識を習得する 2. 環境問題を含め講義に関連する事象について考察・分析する力を養う
授業計画	<p>第1回 環境社会学の基本1：ものを見る目を見つめ直す</p> <p>第2回 環境社会学の基本2：環境社会学における環境問題解決の視点</p> <p>第3回 環境社会学の問題構成1：人間界におけるダーウィンの進化論とは</p> <p>第4回 環境社会学の問題構成2：暴走族と飛行機の違いを事例に</p> <p>第5回 環境共存・利用の社会学：桜は自然といえるのか</p> <p>第6回 環境問題の社会学1：ヒマラヤの事例から</p> <p>第7回 環境問題の社会学2：琵琶湖の事例から</p> <p>第8回 環境意識・文化の社会学：土地と関わり続ける理由</p> <p>第9回 環境行動の社会学：被災地で祭りが催される意義</p> <p>第10回 環境社会学の問題構成3：災害を眼差す視点</p> <p>第11回 環境社会学の分析事例1：高い防潮堤は必要か</p> <p>第12回 環境社会学の分析事例2：ヒトは死んだら終わりなのか</p> <p>第13回 環境社会学の分析事例2 続き：被災地に現れる霊に関する考察</p> <p>第14回 環境社会学の分析事例3：原発災害における復興とは何か</p> <p>第15回 環境社会学のまとめ</p>
授業概要	パワーポイントを使い、クイズや模擬的実習を踏まえつつ講義を進めていきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	環境に関するニュースなどこまめに確認し、環境問題などに関心を持つこと。
テキスト	特になし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	柔軟な発想で常識にとらわれることなく物事を考える視点を、講義を通して身につけていきましょう。
評価方法	確認テスト（36%）、毎時授業への参加（64%） *毎時授業への参加とは、出席カードへの記入、投げかけられた質問への発言、ディベートの場での発言、小課題の提出などを指している。
参考文献	
備考	

講義科目名称：社会心理学（40170）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	帰属	
	第2回	推論と問題解決	
	第3回	自己	
	第4回	性格と社会的性格	
	第5回	ノンバーバル・コミュニケーション	
	第6回	印象形成	
	第7回	態度（態度の一貫性）	
	第8回	態度（認知的不協和）	
	第9回	説得（精査可能性モデル）	
	第10回	説得（効果的な説得とは）	
	第11回	同調（古典的研究と服従の心理）	
	第12回	同調（どんな時に同調するか）	
	第13回	役割	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、社会的認知、対人関係、集団内行動といった、主に個人の内部や対人間で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「心理学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。本年度は13回の授業を実施し、残り2回は授業中に課すものに相当する課題研究等を活用する。遠隔授業期間中の課題と資料はOneDriveからダウンロードすること。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをPDF形式で配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、実験やアンケートを行って参加型の授業を目指します。後期の「集合行動論」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：集合行動論（40180）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会心理学の知見を用いて、社会や人間についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	利他主義	
	第3回	リーダーシップと集団思考（リーダーシップの理論）	
	第4回	リーダーシップと集団思考（集団成極化現象）	
	第5回	映像でみる集団思考	
	第6回	犯罪心理学とプロファイリング	
	第7回	集団間差別と偏見（集団間葛藤）	
	第8回	集団間差別と偏見（社会的アイデンティティ理論）	
	第9回	交換理論	
	第10回	ゲーム理論と社会的ジレンマ	
	第11回	群集とパニック	
	第12回	流言とデマ	
	第13回	世論とマスコミ	
	第14回	文化	
	第15回	異文化間コミュニケーション	
授業概要	社会心理学で扱う内容のうち、集団間行動、集合行動、文化といった、主に集団間や組織されない集団、社会で生じる現象に関するトピックを取り上げて講義する。「社会学的」社会心理学の側面が強い内容となっている。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをPDF形式で配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回、実験やアンケートを行って参加型の授業を目指します。前期の「社会心理学」も履修すると、社会心理学の全体像が見渡せると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会心理学演習（40190）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	カウンセリング体験を通して、自己理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	SGEとは	
	第3回	SGEエクササイズを紹介	
	第4回	SGE体験	
	第5回	SGE体験	
	第6回	教育ゲーム体験（クロスロード）	
	第7回	映像でみる社会心理学	
	第8回	映像でみる社会心理学	
	第9回	映像でみる社会心理学	
	第10回	映像でみる社会心理学	
	第11回	映像でみる社会心理学	
	第12回	映像でみる社会心理学	
	第13回	ふりかえり	
授業概要	SGE（構成的グループエンカウンター）について学ぶ。その後、社会心理学に関する映像を通して理解を深める。 本年度は13回の授業を実施し、残り2回は授業中に課すものに相当する課題研究等を活用する。遠隔授業期間中の課題と資料はOneDriveからダウンロードすること。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎回出席を取りますので、できるだけ休まないようにしてください。就職活動や教育実習などで休む場合は事前に連絡してください。なお、カウンセリングに興味のある学生や、ピアヘルパーの有資格者および資格取得を希望する学生を歓迎します。		
評価方法	授業への参加度（70%）、提出課題など（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：政治心理学（40200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	イデオロギー	
	第5回	映像でみるイデオロギー（前編）	
	第6回	映像でみるイデオロギー（後編）	
	第7回	政党	
	第8回	政党支持	
	第9回	選挙制度	
	第10回	選挙の理論	
	第11回	映像でみる選挙（前編）	
	第12回	映像で見る選挙（後編）	
	第13回	政治的パーソナリティ	
	第14回	政治的社会化	
	第15回	テロリズム	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをPDF形式で配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、まず政治学や政治過程論に関する内容を講義し、政治心理学に関する内容は後半で取り上げます。また、学生から意見を集めたり、ドキュメンタリーを見て考えてもらう、参加型の授業を目指します。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	課題レポート（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：認知心理学（40210）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	認知心理学とは、知覚、記憶、学習、問題解決、思考などの認知機能がどのような仕組みで働いているかを明らかにしようとする心理学の一分野である。
授業計画	<p>第1回 認知心理学とはどのような学問か</p> <p>第2回 人間の認知を情報処理的にとらえる</p> <p>第3回 心理学実験紹介</p> <p>第4回 錯覚</p> <p>第5回 視覚探索</p> <p>第6回 視空間イメージ</p> <p>第7回 国や地域のイメージ測定</p> <p>第8回 作業記憶</p> <p>第9回 注意の自動性（ストループ効果）</p> <p>第10回 注意と change blindness</p> <p>第11回 感覚情報貯蔵庫</p> <p>第12回 短期記憶・長期記憶</p> <p>第13回 記憶を支える脳の仕組み</p> <p>第14回 顔の表情からの感情理解</p> <p>第15回 自分の認知特性を知ろう</p>
授業概要	本講では、人間を情報処理システムとみなして、そのしくみを探ろうとする情報処理アプローチの体験的な理解を中心としながら、認知機能を高める手法についても考察する。最新の脳科学の成果についても触れる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	専門用語等の分からない言葉を辞書や関連図書を使用して事前に調べておくこと。
テキスト	適宜資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ほぼ毎回パソコンを使った体験コーナーがあるので、積極的に参加してください。また、事前に心理学を受講しておくことが望ましいです。結果の整理にエクセルを用いますので、計算やグラフ作成ができるようにしておいてください。授業で伝えたいことや修得して欲しいことを明確に伝えていきます。
評価方法	授業への参加度（40％）、課題及びレポート（60％）
参考文献	
備考	

講義科目名称：経済学入門（40310）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常生活とミクロ経済学，マクロ経済学の概念の融合を目的とします。 新聞やテレビの経済ニュースを経済理論で説明できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス シラバス内容に関して詳しく説明します。 受講の際の注意について説明します。 遠隔授業の進め方について説明します。</p> <p>第2回 市場・需要・需要曲線</p> <p>第3回 需要曲線のシフト・消費者余剰・供給・供給曲線</p> <p>第4回 供給曲線・供給曲線のシフト・生産者余剰</p> <p>第5回 市場均衡・均衡の変化</p> <p>第6回 確認課題(1)・確認課題(1)の解答 追加課題（授業と代替）になる可能性あり その場合は6回目に第7回の授業を行います。以下同様に1回分，回がズレます。</p> <p>第7回 国際貿易</p> <p>第8回 GDP①：定義など</p> <p>第9回 GDP②：名目と実質・経済成長率</p> <p>第10回 国民所得の決定①：民間消費・投資・政府支出</p> <p>第11回 国民所得の決定②：均衡国民所得</p> <p>第12回 財政乗数・租税乗数</p> <p>第13回 開放経済</p> <p>第14回 確認課題(2)・確認課題(2)の解答 追加課題（授業と代替）になる可能性あり</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	講義形式を主体とします。テーマごとに講義を受けた後，確認のために授業内課題を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：学習した概念を次回の講義で利用するので知識の定着をはかってください（必要時間30分程度）。
テキスト	必要に応じて授業内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は，積み上げていくタイプの科目なので毎回の講義をきちんと理解しないと次回の講義が理解できなくなる可能性があります。そのため，復習を厭わない方にお勧めします。 数学を利用します。
評価方法	遠隔授業が6月だけで終わる場合 期末テスト（80%）＋授業内課題（10%×2回） 遠隔授業が7月以降も続く場合 期末テスト（75%－遠隔授業課題2%×回数）＋授業内遠隔課題（10%×2回）＋遠隔授業課題2%×回数＋ノート（5%）
参考文献	
備考	TeamsのClassNoteBookを利用します。 第1回の授業説明をよく読んでから履修すること。 ClassNoteBookへのアクセスに関しては，米短の公式発表に従ってください。 第1回目は履修制限しませんが，第2回目以降は履修登録した学生のみ限定いたします。

講義科目名称：ファイナンス論（40320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	将来価値・割引現在価値を利用した住宅ローンや年金等の計算ができるようになること・ポートフォリオの基礎を理解し、株価を計算できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 単利と複利</p> <p>第3回 将来価値と現在価値</p> <p>第4回 投資先の選択</p> <p>第5回 住宅ローン・確認課題</p> <p>第6回 確認課題の解答・外国為替</p> <p>第7回 実質金利・インフレーション</p> <p>第8回 株取引ゲームのルール説明・戦略レポート</p> <p>第9回 株取引ゲーム</p> <p>第10回 期待値・分析レポート</p> <p>第11回 リスク</p> <p>第12回 ポートフォリオ（安全資産と危険資産）</p> <p>第13回 ポートフォリオの収益率とリスク</p> <p>第14回 ポートフォリオの収益率とリスク（つづき）・確認課題</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	講義は、座学および経済学ゲーム（株取引）を利用したグループ学習により構成されます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：講義で学習した知識の定着のため30分程度。
テキスト	必要になった場合、講義内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	将来設計を考えるうえで金銭の計算を抜きにすることはできません。楽しい老後のため、今から勉強しておきましょう。残念ながら、数学を利用します。
評価方法	期末試験60%、授業内課題20%、株取引ゲームおよびそのレポート20%
参考文献	ツヴォイ（2011）『現代ファイナンス論（第二版）』ピアソン
備考	第1回の講義には必ず出席してください。 電卓（ルート機能の付いたもの）が必要です。

講義科目名称：ファイナンス演習（40330）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ファイナンス論で学習したトピックを実際の生活（投資）に応用できるようにすることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス シラバス内容の詳しい説明をします。 特に授業の進め方など説明するので必ず確認してください。	
	第2回	金融市場（資本市場）	
	第3回	株式と債券	
	第4回	チャートの読み方	
	第5回	四季報の読み方①：四季報とは	
	第6回	四季報の読み方②：材料記事・ROE・ROAなど	
	第7回	四季報の読み方③：財務状況・資本構成など	
	第8回	四季報の読み方④：株式分割など	
	第9回	日経平均・東証TOPIXなど	
	第10回	景気と投資先①：景気下降局面	
	第11回	景気と投資先②：景気上昇局面	
	第12回	投資結果報告	
	第13回	投資結果分析①	
	第14回	投資結果分析②	
	第15回	まとめ	
授業概要	ファイナンス論で学んだポートフォリオ理論の応用を講義前半で講義し、それを利用したコンピュータ演習（投資）を講義後半に行います。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	株式取引に必要な時間（デイトレーディングをする人は毎日30分以上、長期保有をする人は週1回10分程度）。 株価に変動を与える要因についての知識吸収のため、ニュースや新聞を見るのに必要な時間。		
テキスト	必要に応じて授業内で紹介します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ファイナンス論でのポートフォリオの収益率とリスクの関係について理解できていることを前提に講義を行います。 数学の予備知識があると講義の理解が容易になります。		
評価方法	最終的な投資結果（演習の成果）（100%）		
参考文献			
備考	Teams, ClassNoteBookを利用します。 TeamsやClassNoteBookへのアクセスに関しては、米短の公式発表に従ってください。 第1回の説明を必ず確認してください。 第1回は受講制限はしませんが、第2回目以降は履修登録した学生にのみ限定します。		

講義科目名称：簿記会計演習（40340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	4	選択必修
担当教員			
平野 智久			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	企業のさまざまな経済活動について、どのような会計処理がなされるかを検討します。日常的な記録から財務諸表の作成まで、講義と演習とを反復します。 効果的な修得には、日々の復習が大切なことは言を俟たず。日本語を的確に読み取れる、各種法律や現代社会の動向に関心がある、といった点も肝腎です。
授業計画	<p>第1回 ようこそ、簿記・会計学の世界へ！</p> <p>第2回 仕訳&転記に慣れよう！／現金預金も。</p> <p>第3回 会計の歴史から何がみえるか？</p> <p>第4回 商品を仕入れて、顧客へ売り渡そう！</p> <p>第5回 いろいろな債権・債務をもっと単純に！</p> <p>第6回 従業員さん、ありがとう！（仮）</p> <p>第7回 営業費用を総まとめ！（仮）</p> <p>第8回 現金収支を読み解こう！（仮）</p> <p>第9回 じっと俟つことで報酬を……？（仮）</p> <p>第10回 株式や公社債に投資しよう！（仮）</p> <p>第11回 会社の「もうけ」はどこへいく？（仮）</p> <p>第12回 資金が底を尽きそう……どうする？！（仮）</p> <p>第13回 まとめ</p> <p>第14回 検定試験に向けて、定期的に勉強会を開きましょう。</p> <p>第15回 ”</p>
授業概要	1限はYouTube上の動画を視聴し、2限は復習（テキストの精読、問題演習）を進めます。理解を伴うようになるまで、テキストの精読と問題演習とを繰り返しましょう。絶対的な練習量や時間が不足していると、点数はなかなか伸びません。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	YouTube上の動画は今年度は削除しない予定なので、復習にも使ってください。問題演習に際し、「どうしてこの仕訳となるのか」を意識すると効果的でしょう。
テキスト	平野智久[2019]『仕訳でかんがえる会計学入門』新世社。税抜1,850円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この科目は初学者を対象としていますが、全商簿記2級以上を取得していても「気づき」の多い授業を目指します。連続2時限のため、1日の進度は速いです。「一夜漬け」では単位を修得できません。一緒に勉強する友だち“ボキトモ”をつくって、学びを深め、今秋の日商簿記3級を目指しましょう！
評価方法	出欠の確認を兼ねて、「小テスト」（3-5点/回）を行います。期末試験に代えて、「レポート」を課す予定です。
参考文献	蛭川幹夫[2019]『日商簿記ゼミ3級問題演習（改訂版）』実教出版。税抜1,400円。
備考	Teamsのコードは[wn5r5vt]です。

講義科目名称：電子商取引概論（40350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 電子商取引（EC），電子マネー，消費者としてECの効果的な活用方法とトラブル防止策を学んで，ECの基本教養を身につけてもらう。 2. 事業者の視点から電子商店の開店方法と運営の基本知識を理解する。 3. 電子商取引関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 商取引と電子商取引</p> <p>第2回 電子商取引の特徴とインターネットビジネス</p> <p>第3回 電子決済と具体的な決済方法</p> <p>第4回 電子マネー，仮想通貨とFinTech（フィンテック）</p> <p>第5回 電子商取引に関連する法律</p> <p>第6回 契約に関する基本知識と消費者契約法</p> <p>第7回 ネット物販業の基本とビジネスモデル</p> <p>第8回 情報提供仲介事業とそれらのビジネスモデル</p> <p>第9回 コンテンツ販売事業，金融業における電子商取引</p> <p>第10回 電子商店の始め方，ネットオークションとネットフリマの活用</p> <p>第11回 電子ショッピングモールへの出店方法と独立型ネットショップの構築</p> <p>第12回 電子商店運営の基本知識と基本運営指標</p> <p>第13回 電子商店のマーケティング</p> <p>第14回 EC関連の最新話題（レポート）</p> <p>第15回 総合演習（レポート）</p>
授業概要	消費者と事業者の視点から電子商取引（EC）の基本知識，基本技術および効果的な活用方法などを取り上げて講義する。インターネットの関連情報を活用し，様々な問題の答えを探求することも重視する。遠隔授業を実施する際，Microsoft Teamsを利用してビデオとPDF形式で授業資料を配布する。受講生の皆さんは授業資料を読んだりビデオを視聴したりして，授業内容を理解したあと，授業に関する課題を完成し回答をMicrosoft Teamsに書き込んで提出する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発と電子商取引の導入に参加し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 丸山正博：「電子商取引の進展—ネット通販とeビジネス」，八千代出版（2011）。 2. 竹内謙礼：「成功者しか知らない ネットショップ運営 儲かる秘訣が2時間でわかる本」，双葉社（2004）。 3. 二木紘三：「Eコマースのしくみ」，日本文芸社（2000）。
備考	Teamsのチームコード「z26138o」（4番目：小文字L，最後：小文字0），出席確認および質疑応答はすべて

	Teamsを利用する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
董彦文			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 一般利用者としての必要最低限な情報セキュリティ知識を身につけてもらう。 2. ネットワークにおける各種の危険性と脅威を理解のうえ、基本的な対策を習得する。 3. 情報セキュリティ関連の法律に関する基本知識を勉強する。
授業計画	<p>第1回 インターネットとその危険性</p> <p>第2回 情報セキュリティの定義：機密性，完全性，可用性とその他の特性</p> <p>第3回 盗聴の脅威とその対策，暗号化技術の基本知識</p> <p>第4回 侵入・なりすましの脅威と対策</p> <p>第5回 改ざん・破壊の脅威と対策</p> <p>第6回 マルウェア・ウィルスの脅威：基本知識，感染兆候と経路</p> <p>第7回 マルウェア・ウィルス感染防止と駆除対策</p> <p>第8回 情報セキュリティ関連法律のしくみと著作権法</p> <p>第9回 知的財産権と特許法・商標法，個人情報保護法</p> <p>第10回 コンピュータ犯罪防止法，不正アクセス禁止法と不当競争防止法</p> <p>第11回 クラウドサービスとセキュリティ</p> <p>第12回 SNSとセキュリティ</p> <p>第13回 スマートフォンのセキュリティ</p> <p>第14回 情報セキュリティの最新話題</p> <p>第15回 総合演習とレポート</p>
授業概要	情報の盗聴，侵入，破壊とマルウェア・ウィルス感染などの様々な脅威から身を守るための基本知識，基本対策について講義する。インターネットの情報を活用して問題を解決する能力の養成も重視する。
実務経験及び授業の内容	担当教員は様々な中小企業において業務情報システムの開発とWebサーバーの設置・運営を担当し，これらの実務経験を生かして，実用性を重視し授業内容を選定のうえ講義を担当する。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられるテーマについて，インターネットから関連の情報を調べたうえ，自分の見方・考え方を整理すること。また，専門用語が多いため，授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教員の説明を聞きながらインターネット上の関連情報を収集し課題を完成してもらうように授業を進める。難しい専門用語を避けて，より実用的・よりわかり易い授業になるよう工夫していきたい。
評価方法	毎回授業に提出された課題の答え（60点）とレポートの内容（40点）によって評価する。
参考文献	1. 中村行宏：「情報セキュリティの基礎知識」，技術評論社(2017)。 2. 情報処理推進機構：「情報セキュリティ読本 五訂版：IT時代の危機管理入門」，実教出版(2018)。 3. 岩井博樹：「動かして学ぶセキュリティ入門講座」，SBクリエイティブ(2017)。
備考	

講義科目名称：経営学入門（40370）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経営学の基礎的な概念について学修し、実社会で生きていくためのキャリアデザインを描けるようになる、マネジメントの仕組みについて理解できる、という2点の能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	企業経営の全体像：企業とはどのような存在なのか	
	第2回	経営学の全体像：経営学は金儲けの学問なのか	
	第3回	企業と社会：企業形態と株式会社	
	第4回	企業とインプット市場との関わり	
	第5回	企業とアウトプット市場との関わり	
	第6回	競争戦略のマネジメントPart.1：「選ばれる」を作るプロセス	
	第7回	競争戦略のマネジメントPart.2：勝つ企業のパターンとは	
	第8回	多角化戦略のマネジメント：事業の範囲拡大、単一から複数へ	
	第9回	国際化のマネジメント：企業活動の地理的な拡がり	
	第10回	マクロ組織のマネジメント：組織構造のバリエーション	
	第11回	ミクロ組織のマネジメント：働く人をやる気にさせるためには	
	第12回	キャリアデザイン：人生とキャリアのデザイン	
	第13回	ファミリービジネスのマネジメント：創業者一族による経営	
	第14回	非営利組織のマネジメント：博物館や病院に経営は必要なのか	
	第15回	総括	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。毎回授業の終盤に、経営学検定初級の難易度で数問の小テストをおこなう。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	ドキュメンタリー、ニュース、新聞等で本講義に関連するものがあれば、できるだけ閲覧すること。1回当たりの講義に対して、数時間程度の予復習をすることが望ましい。		
テキスト	加護野忠男・吉村典久編（2012）『1からの経営学（第2版）』碩学社（本体2,400円＋税）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく、いかに簡単に捉えることができるか、という視点を身に付けていきましょう。本講義は、「ITパスポート」資格試験の出題範囲（ストラテジ系）を含みます。		
評価方法	試験（80％）、小テスト（10％）、授業への取り組み（10％）		
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞出版社 経営能力開発センター編（2015）『経営学検定試験公式テキスト①経営学の基本』中央経済社 高橋京介（2020）『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ		
備考			

講義科目名称：経営情報論（40380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	経営情報論の基礎的・応用的な概念について学修し、健全な情報社会の発展に参画できる能力を身に付ける。		
授業計画	第1回	経営情報論の基礎：経営情報システムという考え方	
	第2回	経営情報論の基礎理論：システム概念とネットワーク概念	
	第3回	経営情報システムの変遷：経営情報システム関連概念の系統的な整理	
	第4回	復習①：第1～3回の範囲を理解する	
	第5回	情報通信技術の進展：有効で効率的なビジネス活動を可能にする要因	
	第6回	経営情報システムの設計と開発：経営情報システムの設計・開発論の検討	
	第7回	経営情報システムの管理：経営情報システムの管理運営やリスク管理	
	第8回	復習②：第5～7回の範囲を理解する	
	第9回	情報通信技術とビジネス・プロセス革新：ビジネス・プロセス革新との関連性	
	第10回	ネット・ビジネス：現代経済を牽引するネット・ビジネスの諸相	
	第11回	情報通信技術と組織変革：組織の構造的側面からの検討	
	第12回	復習③：第9～11回の範囲を理解する	
	第13回	情報通信技術と組織コミュニケーション：電子メディアや知識創造への考察	
	第14回	情報通信技術と社会：情報行動の社会的影響と企業の対応	
	第15回	総括：まとめと今後の展望	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。復習回では、議論や練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。		
テキスト	遠山暁・村田潔・岸真理子（2015）『経営情報論（新版補訂）』有斐閣		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「経営情報論」とは、どのようなものなのでしょうか。意見交換や課題への取り組みを通じて、一緒に考えてみましょう。		
評価方法	試験（90％）、授業への取り組み（10％）		
参考文献	高橋京介（2020）『いちばんやさしいITパスポート』SBクリエイティブ		
備考	シラバスの内容については、変更になる場合がある。		

講義科目名称：企業経営論（40391）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	企業という対象に関する基礎的な概念について学修し、複雑かつ多面的な現代社会を見る視点を身に付ける。		
授業計画	第1回	現代社会を見る視点：歴史的概観と6つの企業観	
	第2回	豊かな社会と企業の成長Ⅰ：大企業の実態と企業の長期戦略	
	第3回	豊かな社会と企業の成長Ⅱ：大企業と消費者、企業と国家	
	第4回	復習と議論①：財・サービスの提供機関としての企業	
	第5回	株式会社制度の理論と現実Ⅰ：株式会社の機能と構造	
	第6回	株式会社制度の理論と現実Ⅱ：株式会社における制度と実態の乖離	
	第7回	復習と議論②：株式会社としての企業	
	第8回	企業の変容と新しい企業観の登場Ⅰ：大企業の支配構造、性格と機能	
	第9回	企業の変容と新しい企業観の登場Ⅱ：大企業のコーポレート・ガバナンス	
	第10回	復習と議論③：大企業としての企業	
	第11回	組織と管理Ⅰ：企業組織の諸形態、環境変化への適応と変革	
	第12回	組織と管理Ⅱ：管理論の展開	
	第13回	復習と議論④：組織としての企業	
	第14回	総括Ⅰ	
	第15回	総括Ⅱ	
授業概要	パワーポイントを使う講義形式。復習回では、議論や練習問題に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。		
テキスト	三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（2018）『企業（第4版）』有斐閣		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	企業経営論は、現代社会の理解に必要不可欠な企業を対象とする学問です。本講義の受講を通じて、企業について経済的・組織的・制度的に理解し、現代社会に求められる知識を修得しましょう。		
評価方法	試験（90%）、授業への取り組み（10%）		
参考文献	伊丹敬之・加護野忠男（2003）『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社		
備考	シラバスの内容については、変更になる場合がある。		

講義科目名称：経営情報演習（40400）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	Excelを使用してビジネスの現場で求められる基本的なデータ加工について学修し、効率的・効果的に業務遂行することができるスキルを身に付けます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 計算：売上日報、支店別売上実績表、交通費精算書</p> <p>第3回 計算：時間帯別客単価、仕入予定表</p> <p>第4回 集計：在庫棚卸表、販売店別機種別売上表</p> <p>第5回 集計：売上成績比較、顧客別売上集計表、全店経費集計表</p> <p>第6回 集計：研修会申込記録、アンケート集計</p> <p>第7回 復習と応用①：計算と集計を理解する</p> <p>第8回 グラフ作成：事業別売上高推移</p> <p>第9回 グラフ作成：商品別問合せ件数推移、社員構成比率</p> <p>第10回 復習と応用②：グラフ作成を理解する</p> <p>第11回 データベース：社員名簿</p> <p>第12回 データベース：宿泊施設一覧、売上台帳</p> <p>第13回 復習と応用③：データベースを理解する</p> <p>第14回 文書作成：見積書、請求書</p> <p>第15回 復習と応用④：文書作成を理解する</p>
授業概要	研修で用いられるレベルの練習問題に取り組む。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	知識定着のため、各回につき1時間程度の復習が望ましい。
テキスト	必要になった場合、講義内で指定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Excelは失敗しても「元に戻す」でやり直すことができます。何度失敗しても構いません。少しずつ丁寧にやり続けることで、誰でもできるようになります。できた！を積み重ねて、成功することや達成することの喜びを感じつつ、知識を修得していきましょう。
評価方法	課題提出（100%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：メディア文化論（40511）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	授業の開放科目※	※社会人男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. メディアの発展について歴史的側面から概観し、研究に必要な方法論を習得する。 2. 現代社会においてメディアが有している文化的・社会的意義を理解する。
授業計画	<p>第1回 「メディア」とは何か メディア論の射程</p> <p>第2回 記号とコミュニケーション</p> <p>第3回 メディアの歴史と「メディア史観」</p> <p>第4回 マスコミュニケーションとパーソナル・メディア</p> <p>第5回 マスメディアと公共圏</p> <p>第6回 メディア・ミックスとコンテンツ産業</p> <p>第7回 交換と贈与の体系</p> <p>第8回 欲望と流行のメディア</p> <p>第9回 メディアにおける「物語」</p> <p>第10回 視覚文化としてのメディア</p> <p>第11回 映画と表象</p> <p>第12回 メディアと遊び</p> <p>第13回 メディアと観光</p> <p>第14回 コンテンツ分析</p> <p>第15回 インターネットからインターメディアへ</p>
授業概要	<p>メディア論／記号論／映像理論といったメディアをめぐる諸理論を概観し、かつそれらの諸観点に基づいて、メディアとその発展史ならびに文化的特性について分析的に講義します。</p> <p>【遠隔授業の方法】Teams（チームコード：191rdrq）を使用します。基本的には講義資料と音声データをダウンロードしてもらって各自で聴取してもらう（ラジオ講座みたいなものですね）、オンデマンド配信の方法をとります。火曜1限の時間に教員はTeamsにログインしていますので、そこで質疑等を受ける形にしたいと思います。出席確認と課題提出もTeamsで指示します。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中に案内しますが、普段から良質のドキュメンタリーや報道番組、あるいは映画・映像作品を視聴／鑑賞することを求めます。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題レポートを活用した質問・意見交換などを通じて、今日のメディア社会に課せられた諸問題について、皆さんが自分自身で「考える」力を身につけられるように工夫します。
評価方法	授業中の提出課題40%、期末レポート60%。
参考文献	
備考	※高大連携科目（高校生男女が受講する場合有）

講義科目名称：メディア表現論（40521）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	授業の開放科目※	※社会人男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタル表現・制作の現場において必要とされる技術的知識を習得する。 2. メディア表現に関する理論と枠組みを表現史の観点から理解する。
授業計画	第1回 ガイダンス デジタルデータの形式 第2回 デザインの歴史 第3回 メディア表現とデザイン 第4回 文字の情報処理 第5回 タイポグラフィとデザイン 第6回 色彩の情報処理 第7回 商業印刷における色彩表現 第8回 色彩調和と配色の理論 第9回 (デジタル) 写真の原理 第10回 写真表現の歴史 第11回 写真表現と理論 第12回 デジタル動画とアニメーションの理論 第13回 デジタル動画とアニメーションの実践 第14回 デジタル音楽制作の理論 第15回 デジタル音楽制作の実践
授業概要	現代のデジタル表現技術に関して、その前提となる表現史、表現理論、ならびに制作の方法論を講義形式で概観します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	タイポグラフィ、色彩論、写真表現、デジタル動画／音楽のそれぞれの分野について、課題レポート／作品レビューの提出を求めます。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	実作品の鑑賞や解説などを可能な限り混じえることで、技術的な知識と表現の歴史・技法の解説とが、受講生の皆さんの創作的意欲につながるような授業にします。
評価方法	授業での課題提出30%、單元ごとの小テスト40%、期末課題30%。
参考文献	
備考	※高大連携科目（高校生男女が受講する場合有）

講義科目名称：コミュニケーションデザイン論（40530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. マンガを中心にアニメを含めた視覚文化作品の分析の方法論を学び、実際に作品分析を行う。 2. 表象文化の研究におけるさまざまな学際的なアプローチについて理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マンガと教育</p> <p>第3回 マンガの歴史（論）</p> <p>第4回 マンガと文学・ライトノベル</p> <p>第5回 マンガ表現論とその「歴史」</p> <p>第6回 キャラクター論</p> <p>第7回 マンガとジェンダー</p> <p>第8回 映像・芸術としてのマンガ</p> <p>第9回 マンガ物語論</p> <p>第10回 産業としてのマンガ</p> <p>第11回 同人誌と同人文化</p> <p>第12回 マンガと観光</p> <p>第13回 マンガとミュージアム</p> <p>第14回 マンガの海外受容</p> <p>第15回 まとめ マンガ研究における学際性</p>
授業概要	マンガ／アニメの特性とその文化的変容について学際的視点から講義するとともに、マンガ／アニメ作品の分析のために必要な理論・方法論を概観し、さらに実際の作品分析をワークショップ形式で行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	マンガやアニメ作品の購読・視聴において、意識的に批評的精神をもって臨んでください。自分の購読・視聴したマンガ・アニメ（TV／劇場版）作品について、記録と簡単なレビューを残しておくことを求めます。
テキスト	小山昌宏・玉川博章・小池隆太編著『マンガ研究13講』、水声社、2016年、3000円（本体価格。仕入価格により若干の値段変動あり）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	課題提出などを通して理論的／分析的思考を養ってもらおうとともに、参加型の授業形式を複数回取り入れ、議論を通じて広く理解を深めてもらおうと考えています。
評価方法	授業中の提出課題40％、期末レポート60％。
参考文献	小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [増補改訂版] アニメを究める9つのツボ』、現代書館、2014年。小山昌宏・須川亜紀子編著『アニメ研究入門 [応用編] アニメを究める11のコツ』、現代書館、2018年
備考	

講義科目名称：メディア制作演習（40540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
開放（教養）			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. イラストレーション／ポスターデザイン／エディトリアルデザインの制作技術を習得する。 2. 単なる操作技術ではない、表現手段としての技能と方法論を理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ドローソフトによる描画（パス）</p> <p>第3回 ドローソフトによる描画（ブラシ）</p> <p>第4回 写真補正の実践と特殊効果</p> <p>第5回 テクスチャー素材の制作</p> <p>第6回 文字組みの方法論</p> <p>第7回 ロゴの制作</p> <p>第8回 レイアウトと構成</p> <p>第9回 フライヤーの制作（立案）</p> <p>第10回 フライヤーの制作（仕上げと講評）</p> <p>第11回 イラストレーションの技法</p> <p>第12回 イラストレーションの制作プロセス</p> <p>第13回 作品制作の構想案作成とプレゼンテーション</p> <p>第14回 最終課題作品の制作(1)（導入）</p> <p>第15回 最終課題作品の制作(2)（仕上げと講評）</p>
授業概要	<p>Adobe社のIllustrator・Photoshopを用いたデザインやアート表現を、制作を通して実践的に学びます。毎回の演習課題は実地の制作同様のスタイルで進めていきます。</p> <p>演習は「メディア表現論」を既履修であることを前提に行いますので、そのつもりで履修すること。</p> <p>【遠隔授業について】Illustrator・Photoshopのソフトを自分で持っているという方はごく少数だと思われるので、実際の演習授業は対面授業再開後か、あるいは、情報処理教室1の使用許可ならびに県外からの移動規制の解除が出てからになる予定です。受講される方は、補講期間に4コマ分程度の補講授業が入ることを前提にしてください。ただ、ソフトを使わなくてもあらかじめ準備してもらえますので（ラフスケッチや写真画像の準備等）、その内容についてはTeams（チームコード：vtgbbw）を使用して指示したいと思います。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業時間中に行うのは、原則としてソフトウェアの機能や操作、何ができるのか、ということの解説が主となりますので、授業で提示した課題については各自空き時間などに作業をしてもらうことになります。制作のためのデジタル素材集めや下準備も必要になります。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	1年次の「メディア表現法」の実践演習と捉えてください（「メディア表現法」の履修は条件ではありませんが、その講義で解説した知識が習得済であることを前提に本演習を行います）。自ら考えて表現しようとする意志を要求する授業です。最終的に自由制作課題作品を1点提出してもらいます。
評価方法	演習課題の提出70%、最終課題作品（提出必須）30%。
参考文献	

講義科目名称：メディアリテラシー（40550）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	メディアの特徴や修辞法を学ぶことにより、メディアが伝えない物は何かを知り、物事を批評する力を身につける。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	私のメディア史	
	第3回	メディアは構成される	
	第4回	メディアがリアリティを作る	
	第5回	メディアの伝える価値観・商業主義	
	第6回	メディア・アクセス	
	第7回	映像編集体験（ドローン映像）	
	第8回	映像編集体験（ドローン映像）	
	第9回	映像編集体験（ドローン映像）	
	第10回	映像編集体験（自由制作）	
	第11回	映像編集体験（自由制作）	
	第12回	映像編集体験（自由制作）	
	第13回	映像編集体験（自由制作）	
	第14回	映像編集体験（自由制作）	
	第15回	作品発表会	
授業概要	メディアリテラシーに関するトピックを取り上げて講義した後、実際にビデオ編集作業を行って「メディアは構成される」ことを理解する。素材撮影用のビデオカメラは本学備品を貸し出す。なお、編集したビデオ作品は提出してもらうので、授業時間外でも自主的に作業を進めるくらいの熱意ある学生に履修してもらいたい。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをPDF形式で配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	2年に一度、山形市で山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されます。山形市の山形ビッグウィング内にある山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーでは、この山形国際ドキュメンタリー映画祭の出展作品を無料で視聴することができます。関心のある学生は、是非見に行ってください。		
評価方法	ビデオ作品（80％）、授業への参加度（20％）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：応用データ分析（40561）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「簿記会計演習」または「応用情報処理演習II」等の商業簿記を対象とした授業での学習を踏まえて、本授業の目的は日商簿記2級（工業簿記）で求められる知識とスキルを習得することである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。工業簿記の基本的な事項 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 費目別計算－1</p> <p>第3回 費目別計算－2</p> <p>第4回 単純個別原価計算－1</p> <p>第5回 単純個別原価計算－2</p> <p>第6回 部門別個別原価</p> <p>第7回 本社工場会計</p> <p>第8回 単純総合原価計算</p> <p>第9回 工程別総合原価計算</p> <p>第10回 組別総合原価計算</p> <p>第11回 等級別総合原価計算</p> <p>第12回 標準原価計算</p> <p>第13回 直接原価計算 1</p> <p>第14回 直接原価計算－CVP分析</p> <p>第15回 総合問題</p>
授業概要	日商簿記2級では商業簿記と工業簿記の両方の知識とスキルが問われる。しかし、この授業では工業簿記のみの範囲を網羅する。商業簿記は「応用情報処理演習III」の授業で扱うので、これらの両科目の受講が前提となる。事前学習用の課題等を与えて、授業時間の最初に小テストを実施するので、授業では基本的に「小テスト」と「解説」を行って、課題や問題等の作成は宿題とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、技術・スキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日商簿記3級（商業簿記）では主に中小規模の店舗における簿記・会計を扱っているのに対し、日商簿記2級（商・工業簿記）では大規模な店舗を含む商業および工業を対象としています。2月の検定試験を受けられる方向けの授業になるので沢山の課題を短時間で集中的にやることで全範囲を部網羅します。この授業では「工業簿記」のみを対象としているので、「商業簿記」を対象としている「応用情報処理演習III」の受講も必須です。
評価方法	（1）小テスト：10回 x 5点 = 50点。（2）授業課題：10回 x 1点 = 10点。（3）商業および工業簿記の総合課題：2回 x 5点 = 10点。（4）期末試験：30点。 成績 = （1） + （2） + （3） + （4） ただし、 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点
参考文献	初回に紹介する。

備考	(1) 「簿記会計演習」または「応用情報処理演習II」の事前受講、あるいは日商簿記3級程度の知識・スキルを有することが望まれている。(2) この授業では検定を受検される受講生を対象としている。(3) 商業簿記を対象としている「応用情報処理演習III」の授業と連動しているので、そちらの履修も必要となる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、主にTOEIC向けの対策問題をこなすことにより言語能力の向上を目指す。目的は二つである。一つは、社会人に求められている英語コミュニケーション能力を身につけることである。もう一つは、外国語を学習することは自国語を探究することなので、自国語への理解を深めることである。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス。Part 5（文法・語彙）（その1） ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 Part 5（文法・語彙）（その2）</p> <p>第3回 Part 6 - 長文穴埋め型（その1）</p> <p>第4回 Part 6 - 長文穴埋め型（その2）</p> <p>第5回 Part 7 - 単長文章・2問型（その1）</p> <p>第6回 Part 7 - 単長文章・2問型（その2）</p> <p>第7回 Part 7 - 単長文章・3問型（その1）</p> <p>第8回 Part 7 - 単長文章・3問型（その2）</p> <p>第9回 Part 7 - 単長文章・4問型（その1）</p> <p>第10回 Part 7 - 単長文章・4問型（その2）</p> <p>第11回 Part 7 - 複数長文章・5問型（その1）</p> <p>第12回 Part 7 - 複数長文章・5問型（その2）</p> <p>第13回 Part 7 - 複数長文章・5問型（その3）</p> <p>第14回 Part 7 - 複数長文章・5問型（その4）</p> <p>第15回 Part 7 - 複数長文章・5問型（その5）</p>
授業概要	ここではTOEIC（リーディング）におけるpart5～part7の問題を解きながら、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。毎回、事前学習用の課題等を与えて、授業時間の最初に小テストを実施するので、授業では「小テスト」と「解説」を行って、課題や問題等の作成は宿題とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、4.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、この科目ではリーディングのスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	言語力を高めたい、コミュニケーション能力を向上させたい、検定を受けてみたい、社会に出たら必要になるかもしれないから勉強しておきたい等と思っている人を対象とした授業です。
評価方法	<p>(1) 小テストおよび授業ノートの点検：15回 x 3点 = 45点。 (2) 定期課題：15回 x 1点 = 15点。 (3) 各セクションのまとめの課題：4回 x 5点 = 20点。 (4) 期末テストおよび授業ノートの点検：20点。 成績 = (1) + (2) + (3) + (4)</p> <p>ただし、 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。 遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点</p>

参考文献	
備考	(1) TOEICまたは他の英語検定を受験される方を対象としている。(2) 7月もしくは8月の受験をするという前提で授業を進める。また、受験結果の報告を求める予定である。例年、7月末にTOEICの試験が実施されるが、2020年には変則的にならないようなので、8月の試験になる。そこで、8月中に直前対策講座を開く場合もある。(3) 前期の「教養ゼミ(伊豆田担当)」ではTOEIC(リスニング)の訓練を行うので興味のある方はご相談ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
開放（教養）			講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、主にTOEIC向けの対策問題をこなすことにより言語能力の向上を目指す。目的は二つである。一つは、社会人に求められている英語コミュニケーション能力を身につけることである。もう一つは、外国語を学習することは自国語を探究することなので、自国語への理解を深めることである。
授業計画	<p>第1回</p> <p>1 限目：ガイダンス。Part 5（文法・語彙）-解説（その1） 2 限目：Part 5（文法・語彙） - 解説および実践問題（その1）</p> <p>第2回</p> <p>1 限目：Part 5（文法・語彙） - 解説（その2） 2 限目：Part 5（文法・語彙） - 解説および実践問題（その2）</p> <p>第3回</p> <p>1 限目：Part 6 - 長文穴埋め型 - 解説（その1） 2 限目：Part 6 - 長文穴埋め型 - 解説および実践問題（その1）</p> <p>第4回</p> <p>1 限目：Part 6 - 長文穴埋め型 - 解説（その2） 2 限目：Part 6 - 長文穴埋め型 - 解説および実践問題（その2）</p> <p>第5回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・2問型 - 解説（その1） 2 限目：Part 7 - 単長文章・2問型 - 解説および実践問題（その1）</p> <p>第6回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・2問型 - 解説（その2） 2 限目：Part 7 - 単長文章・2問型 - 解説および実践問題（その2）</p> <p>第7回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・3問型 - 解説（その1） 2 限目：Part 7 - 単長文章・3問型 - 解説および実践問題（その1）</p> <p>第8回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・3問型 - 解説（その2） 2 限目：Part 7 - 単長文章・3問型 - 解説および実践問題（その2）</p> <p>第9回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・4問型 - 解説（その1） 2 限目：Part 7 - 単長文章・4問型 - 解説および実践問題（その1）</p> <p>第10回</p> <p>1 限目：Part 7 - 単長文章・4問型 - 解説（その2） 2 限目：Part 7 - 単長文章・4問型 - 解説および実践問題（その2）</p> <p>第11回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説（その1） 2 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説および実践問題（その1）</p> <p>第12回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説（その2） 2 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説および実践問題（その2）</p> <p>第13回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説（その3） 2 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説および実践問題（その3）</p> <p>第14回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説（その4） 2 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説および実践問題（その4）</p> <p>第15回</p> <p>1 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説（その5） 2 限目：Part 7 - 複数長文章・5問型 - 解説および実践問題（その5）</p>
授業概要	ここではTOEIC（リーディング）におけるpart5～part7の問題を解きながら、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。毎回、事前学習用の課題等を与えて、授業時間の最初に小テストを実施するので、授業では「小テスト」と「解説」を行って、課題や問題等の作成は宿題とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、9時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は135時間としている。ただし、この科目ではリーディングのスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	言語力を高めたい、コミュニケーション能力を向上させたい、検定を受けてみたい、社会に出たら必要になるかもしれないから勉強しておきたい等と思っている人を対象とした授業です。

評価方法	<p>(1) 小テストおよび授業ノートの点検：15回 x 3点 = 45点。 (2) 定期課題：15回 x 1点 = 15点。 (3) 各セクションのまとめの課題：4回 x 5点 = 20点。 (4) 期末テストおよび授業ノートの点検：20点。 成績 = (1) + (2) + (3) + (4) ただし、 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。 遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点</p>
参考文献	
備考	<p>(1) TOEICまたは他の英語検定を受験される方を対象としている。(2) 7月もしくは8月の受験をするという前提で授業を進める。また、受験結果の報告を求める予定である。例年、7月末にTOEICの試験が実施されるが、2020年には変則的にならないようなので、8月の試験になる。そこで、8月中に直前対策講座を開く場合もある。(3) 前期の「教養ゼミ（伊豆田担当）」ではTOEIC（リスニング）の訓練を行うので興味のある方はご相談ください。</p>

講義科目名称：データ分析入門（40581）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	本演習では、統計学に基づくデータ分析の方法を学習する。私たちの周りには常に何らかの不確かさを含み、不確定なものなので、それらから客観的かつ適切な結論・判断を導き出すためには統計学の評価・解析方法が不可欠である。授業では統計分析ソフトを活用しながら統計学的な「仮説検定」と「解析方法」を学ぶ。達成目標は情報の客観的に分析することでデータの処理および読み解く力を身につけることである。
授業計画	<p>第1回 データ分析とは。データの整理の基本。ソフトの基本的な操作 ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 基本的な統計量</p> <p>第3回 仮説検定の基本</p> <p>第4回 検定1：F-検定（等分散の検定）。t-検定（平均値の検定）</p> <p>第5回 検定2：t-検定（平均値の検定）（演習問題）</p> <p>第6回 検定3：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）</p> <p>第7回 検定4：ANOVA（分散分析法・多群の平均値の検定）（演習問題）</p> <p>第8回 検定5：CHI-2適合度検定（比率の検定）</p> <p>第9回 解析方法1：相関分析。回帰分析</p> <p>第10回 解析方法2：重回帰分析</p> <p>第11回 解析方法3：数量化</p> <p>第12回 解析方法4：クラスター分析</p> <p>第13回 解析方法5：FA分析（因子分析）</p> <p>第14回 解析方法6：SEM分析</p> <p>第15回 解析方法7：コレスポンデンス分析</p>
授業概要	毎回、授業内容の背景にある統計学的な考え方を簡単に概説した後、パソコン上でRとexcelソフトを活用しながら演習の形で様々な課題を解く。なお、表計算ソフトの活用方法を習得していることが望ましい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、2時間の事前学習、2.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、社会でも求められているスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	アンケート調査等では、データの集計は不可欠です。しかし、単純な集計だけでは不十分なケースが多々あるので、統計学的手法による検定や分析が必要となります。この演習では、そのような場合に対応できるような知識とスキルを身につけます。なお、卒業研究の調査等では不可欠と言っていいほど必要なツールなので、ぜひ受講してください。
評価方法	定期課題：5回 x 10点 = 50点。 期末テスト：50点。 公欠以外の欠席や無断退室等：1回につき10点減点。遅刻（出欠確認後）：1回につき3点減点 携帯等の無許可使用や授業とは関係のない活動：1回につき10点減点
参考文献	初回に紹介する。
備考	

講義科目名称：データベース概論（40590）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】企業で扱う顧客情報や商品情報など、ICT社会の根幹を担うデータベースの基礎的な事項を理解する。</p> <p>【到達目標】業務にて小規模なデータベースシステムを取り扱う場合を想定して、業務に必要なスキルを身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 前半(第2回から第5回)はデータベースに関する基礎知識について学ぶ。 後半(第6回から第15回)は前半で学んだ基礎知識をもとにデータベースの実習を行う。</p> <p>第2回 データとデータベース</p> <p>第3回 テーブルとその構造、主キーと外部キー</p> <p>第4回 リレーションシップ、データの正規化</p> <p>第5回 データの正規化</p> <p>第6回 テーブルの設計と作成、主キー設定 既習学習の内容確認および実習、課題1</p> <p>第7回 テーブル設計、外部データのインポート 既習学習の内容確認および実習、課題2</p> <p>第8回 主キーと外部キー、リレーションシップの作成 既習学習の内容確認および実習、課題3</p> <p>第9回 クエリの作成 既習学習の内容確認および実習、課題4</p> <p>第10回 クエリによるレコードの抽出 既習学習の内容確認および実習</p> <p>第11回 クエリによるレコードの抽出と集計 既習学習の内容確認および実習、課題5</p> <p>第12回 クエリによるグループ化と集計 既習学習の内容確認および実習、課題6</p> <p>第13回 フォームを活用したテーブルへのデータ登録 既習学習の内容確認および実習、課題7</p> <p>第14回 レポートを活用した帳票設計 既習学習の内容確認および実習、課題8</p> <p>第15回 まとめ 期末課題</p>
授業概要	データベースは難しい概念があるため、講義とともに、実際にパソコンを使って実習を行い、基礎的な知識や技術の確実な定着を図ります。データベースシステムはMicrosoft Accessを使用します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしデータベース概論の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題の作成に取り組みます。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	情報リテラシーの基礎は習得済みとして講義を行います。前期に開講される情報系科目は必ず履修してください。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。
評価方法	授業時課題(課題1～課題8)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を60%、期末課題の得点の合計点(各小問の配点の総合計を期末課題の満点とする)を40%とし、総合得点60点以上を合格とします。
参考文献	図書館にはデータベースに関連する書籍が多数所蔵されています。
備考	USBメモリと配布済み資料を毎回持参してください。USBメモリの取り扱いには十分留意してください。毎回出欠をとりまします。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。

講義科目名称：プログラミング演習 1 (40611)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】 1. プログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成する</p>
授業計画	<p>第1回 プログラミング、開発環境について 本講義で使用するプログラミング言語はVisual Basic For Applicationを用います。</p> <p>第2回 計算と入出力：文字列の取り扱い</p> <p>第3回 計算と入出力：数値（整数）の取り扱い</p> <p>第4回 計算と入出力：数値（小数）の取り扱い 発展問題に取り組み、これまでの学習の理解をさらに深めます。</p> <p>第5回 処理の選択：If文 発展問題に取り組み、これまでの学習の理解をさらに深めます。 課題 1</p> <p>第6回 処理の選択：If文による処理の多重分岐</p> <p>第7回 画面作成で使用するコントロールの取り扱い 課題 2</p> <p>第8回 条件分岐処理：Select Case文 課題 3</p> <p>第9回 繰り返し処理：Do While～Loop文 課題 4</p> <p>第10回 繰り返し処理とワークシートの操作 課題 5</p> <p>第11回 繰り返し処理：For～Next文 課題 6</p> <p>第12回 配列</p> <p>第13回 動的配列 期末課題(問題 1、問題 2)</p>
授業概要	プログラムを作成することでコンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。遠隔授業はTeamsを使用します。Teamsに講義資料をアップロードするので確認してください。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング演習 1 の授業を行います。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に資料を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	プログラム作成はトライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしいです。何事もトライ&エラーが大切です。呼名により出欠を取ります。
評価方法	授業時課題(課題 1～課題 6)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を50%、動作確認を行った例題プログラム提出点の合計(2点×12回=24点満点)を15%、期末課題(問題 1～問題 2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を期末課題の満点とする)を35%とし、総合得点60点以上を合格とします。全ての課題プログラムは各課題における評価基準(ルーブリック)をもとに評価します。各課題の評価基準・配点・課題提出締切日時を明記したルーブリックは事前に周知・公表します。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が多数所蔵されています。
備考	提出された課題プログラムに対するフィードバックはルーブリックに基づく採点実施直後に行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】プログラミングに必要な問題を解くための手順(アルゴリズム)の組み立て方を理解し、プログラムを順序立てて正確に作成する</p> <p>【到達目標】 1. Webプログラミング言語の文法やそれを記述するための作業の仕方を身に付ける 2. プログラムを順序立てて正確に作成できる</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、HTML5の書式、HTMLのフォーム要素 本講義で使用するプログラミング言語はJavaScriptを用います。</p> <p>第2回 JavaScriptの基本的な記述方法</p> <p>第3回 変数とデータ型</p> <p>第4回 条件分岐：if命令 課題1</p> <p>第5回 処理の多重分岐：else if命令、switch命令 課題2</p> <p>第6回 繰り返し処理：while命令、do...while命令 課題3</p> <p>第7回 繰り返し処理：for命令、for...in命令 課題4</p> <p>第8回 関数の定義とその利用 課題5</p> <p>第9回 イベントの発生とその取り扱い方法 課題6</p> <p>第10回 JavaScriptからHTML要素を扱う 課題7</p> <p>第11回 JavaScriptからCSSを操作する 課題8</p> <p>第12回 タイマー処理を実現する</p> <p>第13回 Canvas要素によるグラフィック操作</p> <p>第14回 Canvas要素によるグラフィック操作とアニメーション</p> <p>第15回 Canvas要素によるアニメーション 期末課題(問題1、問題2)</p>
授業概要	プログラムを作成することで、コンピュータで利用できる新しいツールを作り出すことができます。そのためにはプログラムを順序立てて正確に作成する必要があります。各回の授業では例題プログラムのプログラミングを行いながら文法などの知識を学び、プログラミングに必要な考え方や技術を習得します。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしプログラミング演習2の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要であるため、【事後学修】として授業時課題を課します。授業時課題は当該授業までの学習内容の確認・応用を行う課題プログラムの作成に取り組みます。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	プログラム作成は一度で全てが上手くいくことはなく、トライ&エラーを繰り返しながら徐々に完成に近づけていくことが大半であることを理解してほしいです。何事もトライ&エラーが大事です。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。毎回出欠をとります。遅刻した場合は必ず授業終了後に遅れた旨を自己申告してください。
評価方法	授業時課題(課題1～課題8)の得点の合計点(各課題の配点の総合計を授業時課題の満点とする)を50%、動作確認を行った例題プログラム提出点の合計(2点×15回=30点満点)を15%、期末課題(問題1、問題2)の得点の合計点(各問題の配点の総合計を期末課題の満点とする)を35%とし、総合得点60点以上を合格とします。全ての課題プログラムは各課題における評価基準(ルーブリック)をもとに評価します。各課題の評価基準・配点・課題提出締切日時を明記したルーブリックは事前に周知・公表します。
参考文献	図書館にはプログラミングに関連する本が所蔵されています。
備考	提出された課題プログラムに対するフィードバックはルーブリックに基づく採点実施直後に行います。

講義科目名称： I T概論 (40620)

授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】ネットワーク、セキュリティなどIT技術に関する基本的な考え方や特徴などを学ぶ。 【到達目標】IT技術やPCの仕組みなどについての知識や技術を説明できる。
授業計画	<p>第1回 マルチメディア</p> <p>第2回 コンピュータで扱う数値やデータに関する基礎的な理論</p> <p>第3回 集合と論理演算、文字の表現</p> <p>第4回 アルゴリズムとプログラミング</p> <p>第5回 コンピュータ構成要素</p> <p>第6回 システム構成要素</p> <p>第7回 システムの信頼性</p> <p>第8回 オペレーティングシステム、ソフトウェア</p> <p>第9回 ネットワークの形態とプロトコル</p> <p>第10回 インターネットの仕組みとそのサービス</p> <p>第11回 情報セキュリティ</p> <p>第12回 情報セキュリティ対策</p> <p>第13回 暗号化技術</p>
授業概要	昨今のICT社会を反映して通常のパソコン操作はできるものの、トラブルには対応できないなどの不安を持つ者も多い。これは知識や技術の不足が主な原因であるため、講義ではこのコア知識を習得します。遠隔授業はTeamsを使用します。Teamsに講義資料をアップロードするので確認してください。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かしIT概論の授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。【事後学修】として配布資料や参考文献などをいま一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理してください。(所要時間：各回2～4時間程度)
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	口頭で説明した内容が重要な内容である場合も多いため、配布資料にマーキングを行う、ノートやメモを取るなどをして講義内容を頭で考え理解するように努めることが重要です。
評価方法	期末試験の点数(100点満点)を100%とし、期末試験の得点60点以上を合格とします。期末試験の受験は授業回数2/3以上の出席が受験資格の条件とします。期末試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。期末試験は25問出題し、1問4点×25問=100点満点とします。
参考文献	IT技術に関する書籍やITパスポート試験に関するテキストは図書館などに数多く所蔵されています。例えば、ITパスポート試験に関するテキストでは、FOM出版、「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」、2200円(税別)があります。
備考	配布済み資料を毎回持参してください。毎回出欠をとります。

講義科目名称：基礎ゼミ二（40720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、専門ゼミでの研究に向けた基礎的な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	導入	
	第2回	導入	
	第3回	発表・演習	
	第4回	発表・演習	
	第5回	発表・演習	
	第6回	発表・演習	
	第7回	発表・演習	
	第8回	発表・演習	
	第9回	発表・演習	
	第10回	発表・演習	
	第11回	発表・演習	
	第12回	発表・演習	
	第13回	発表・演習	
	第14回	発表・演習	
	第15回	まとめ	
授業概要	社会心理学や政治学に関する文献を読んで、各回の担当者がレジュメにまとめて発表し、みんなで議論する。また、左記テーマに関連した演習を行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	別途、教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	履修希望者は、どんな文献が読みたいか前もって考えておいてください。また、ゼミ生同志のリレーション作りも大事にしていますので、これらにも積極的に参加できる方をお待ちします。		
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミ三（40730）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
高浜 快斗			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	経営に関する基礎的・専門的知識について全国レベルで資格認定する唯一の検定試験「経営学検定」の試験対策を通じて、実社会で生きていくために必要なマネジメント観を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 企業システム：企業と経営、企業・会社の概念と諸形態</p> <p>第3回 企業システム：所有・経営・支配と経営目的、コーポレート・ガバナンス</p> <p>第4回 復習①：第2・3回の範囲を理解する</p> <p>第5回 経営戦略：体系と理論、全社戦略</p> <p>第6回 経営戦略：事業戦略、機能別戦略</p> <p>第7回 復習②：第5・6回の範囲を理解する</p> <p>第8回 経営組織：基礎理論、組織の基本形態</p> <p>第9回 経営組織：企業組織の諸形態、制度・管理・文化</p> <p>第10回 復習③：第8・9回の範囲を理解する</p> <p>第11回 経営管理：経営管理の基礎理論</p> <p>第12回 経営管理：マネジメントの階層とプロセス</p> <p>第13回 経営管理：経営計画</p> <p>第14回 経営管理：コントロール</p> <p>第15回 復習④：第11・12・13・14回の範囲を理解する</p>
授業概要	文献購読の形式で、経営知識を身の回りの生活レベルで紐解きながら学んでいく。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容に関連するドキュメンタリーやニュースを閲覧することが望ましい。
テキスト	経営能力開発センター編（2015）『経営学検定試験公式テキスト ①経営学の基本』中央経済社
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どんなに難しいと思うようなことであっても、突き詰めれば簡単なことの集合体です。難しいからといって敬遠するのではなく、いかに簡単に捉えることができるか、という視点を身に付けていきましょう。
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）
参考文献	
備考	指定テキストを毎回持参してください。

講義科目名称：基礎ゼミ四（40740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			

授業のテーマ及び到達目標	就職活動や編入活動に必要な論理的思考や経済学の基礎知識の習得を目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス ゼミ参加者の学習履歴・学習目的により変更する可能性があります。 第1回目のゼミの際に使用テキストなど相談します。 テキストを利用する場合は、輪読形式で行います。	
	第2回	一国の経営（マクロレベル）①テーマ：資金循環	
	第3回	一国の経営（マクロレベル）②テーマ：雇用と教育	
	第4回	一国の経営（マクロレベル）③テーマ：投資	
	第5回	一国の経営（マクロレベル）④テーマ：国富	
	第6回	開発経済①テーマ：資源	
	第7回	開発経済②テーマ：街の場所	
	第8回	開発経済③テーマ：街道建設	
	第9回	開発経済④テーマ：街の発展	
	第10回	開発経済⑤テーマ：港の利用	
	第11回	個別企業の経営①テーマ：初期資源（初期賦存）	
	第12回	個別企業の経営②テーマ：投資	
	第13回	個別企業の経営③テーマ：生産	
	第14回	個別企業の経営④販売	
	第15回	まとめ	
授業概要	設定されたテーマについて学生が考え、報告する形式をとります。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習：各テーマにつき、自分で必要な場合は事前に調査等を行ってください（必要時間30分程度）。 復習：必要はありません。		
テキスト	参加者の学習履歴に合わせたテキストをゼミ内で指定します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学の知識があると株価や為替、景気など、新聞や経済ニュースの理解が容易になります。また、論理的思考ができたり、報告に慣れていたりすると進路選択の幅が広がるはずです。		
評価方法	ディスカッションへの参加およびパフォーマンス100%。 無断欠席は1回につき10%のマイナス評価。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：基礎ゼミ五（40750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 実際の作品分析を通して、記号論や映像論・写真論などの批評理論の基本的枠組を理解します。 2. 作品批評をプレゼンテーションとして発表し、かつコメントする能力を養います。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 作品分析の方法論</p> <p>第3回 視覚文化研究の文献講読(1)</p> <p>第4回 作品鑑賞と分析(1)</p> <p>第5回 受講生による報告発表(1)</p> <p>第6回 視覚文化研究の文献講読(2)</p> <p>第7回 作品鑑賞と分析(2)</p> <p>第8回 受講生による報告発表(2)</p> <p>第9回 視覚文化研究の文献講読(3)</p> <p>第10回 作品鑑賞と分析(3)</p> <p>第11回 受講生による報告発表(3)</p> <p>第12回 視覚文化研究の文献講読(4)</p> <p>第13回 作品鑑賞と分析(4)</p> <p>第14回 受講生による報告発表(4)</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	基本的には文献講読を行なったうえで、2～3人の受講生による作品分析と報告発表を演習形式で行います。分析に必要な理論や概念を発表の合間に講義します。後半はテレビアニメシリーズをまとめて鑑賞・批評してもらう予定です。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げている映画・映像作品に関連する作品を別途鑑賞することを求めます。また受講生の報告発表の内容に関連してその他参考作品を提示してもらうこともあります。
テキスト	資料プリントを適宜配布します。取り上げる文献ならびに作品については受講生の興味・関心に応じて決定します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品の「鑑賞」と作品の「批評」とはまったく似て非なるものです。感性的に与えられたものについて分析的に捉えて考察する「眼」を養っていただければと考えています。
評価方法	報告発表50%、期末レポート課題50%。
参考文献	
備考	

講義科目名称：基礎ゼミ七（40770）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】生活に深く浸透したITや企業における経営についてのより深い学びを行います。そして、経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識しながら情報リテラシーを向上させる。 【到達目標】ITと経営に関する知識について説明することができる。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	システム要件定義、システム設計、プログラミング、システム開発における見積りの考え方 確認テスト1	
	第3回	テスト実施手順、テストの技法、単体テスト、結合テスト、システムテスト、テスト評価 確認テスト2	
	第4回	システム導入、システムの受け入れ、システム運用、システム保守 確認テスト3	
	第5回	ソフトウェア開発手法、ソフトウェア開発モデル、ソフトウェアにおける共通フレーム 確認テスト4	
	第6回	プロジェクトマネジメントの意義とその目的 確認テスト5	
	第7回	プロジェクトマネジメントのプロセス、プロジェクトマネジメントに必要な知識体系 確認テスト6	
	第8回	サービスマネジメントの意義とその目的、サービスマネジメントにおけるフレームワーク 確認テスト7	
	第9回	サービスレベル管理、サービス可用性管理 確認テスト8	
	第10回	サービスデスク 確認テスト9	
	第11回	ファシリティマネジメント 確認テスト10	
	第12回	システム監査の意義とその目的、システム監査のプロセス 確認テスト11	
	第13回	内部統制 確認テスト12	
	第14回	ITガバナンス 確認テスト13	
	第15回	まとめ 確認テスト14	
授業概要	経済産業省の国家資格「ITパスポート試験」を意識し、特にプロジェクトマネジメント、システム開発などIT管理（マネジメント系）に関する基礎知識をもとに、ITパスポート試験の公開問題にチャレンジしながら、ITと経営について深く学んでいく。		
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし基礎ゼミ七の運営を行う。		
時間外学習	【事前・事後学修】各回の授業では確認テストを実施する。テキストやノート等を参照しながらテスト範囲の内容の理解を深める。（所要時間：各回4時間程度）		
テキスト	FOM出版、「よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」、FOM出版、2200円（税別）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ITと経営の総合的知識はいかなる分野・業界でも必要な知識です。国家試験の情報処理技術者試験「ITパスポート試験」に合格するとあなたのIT力を企業に証明できるため、就職活動時の自己アピールに繋がります。就職活動をする人は是非ITパスポート試験にチャレンジしてほしい。なお「経営学入門」と「IT概論」は履修済みまたは履修中であることを履修条件とします。またITパスポート試験の受験申込と受験を行う予定のため、学期末にITパスポート試験を受験を行うことも履修条件の一つとしたい。		
評価方法	各回の確認テストの得点の合計点(各回の確認テストの配点の総合計を満点とする)を80%、平常点(積極的なゼミ参加度を重視)を20%とし、総合得点60点以上を合格とします。各回の確認テストの配点はテストにより異なります。		
参考文献	ITや経営に関するテキストが図書館に数多く所蔵されています。		
備考	教科書や配布済み資料のすべてを毎回必ず持参してください。		

講義科目名称：専門ゼミ二（40820）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	ゼミでの知的・人的交流を通して、卒業研究の作成に必要な知識やスキルを身につける。		
授業計画	第1回	導入	
	第2回	卒論の書き方を知る	
	第3回	資料集め	
	第4回	統計処理の復習	
	第5回	研究計画書の作成	
	第6回	研究計画の発表と議論	
	第7回	研究計画の発表と議論	
	第8回	研究計画の発表と議論	
	第9回	研究計画の発表と議論	
	第10回	研究計画の発表と議論	
	第11回	研究計画の発表と議論	
	第12回	研究計画の発表と議論	
	第13回	研究計画の発表と議論	
	第14回	中間発表と個別指導	
	第15回	中間発表と個別指導	
	第16回	中間発表と個別指導	
	第17回	中間発表と個別指導	
	第18回	中間発表と個別指導	
	第19回	中間発表と個別指導	
	第20回	中間発表と個別指導	
	第21回	中間発表と個別指導	
	第22回	中間発表と個別指導	
	第23回	中間発表と個別指導	
	第24回	中間発表と個別指導	
	第25回	論文集の作成	

	<p>第26回 論文集の作成</p> <p>第27回 論文集の作成</p> <p>第28回 論文集の作成</p>
授業概要	<p>まず卒業研究の計画について、順番に各自発表してもらい、議論を行う。その後、中間発表と個別指導を行い、最後に論文集を作成する。各自の研究テーマは自由であるが、政治や社会心理、文化などについて問題意識を持つ学生を歓迎する。</p> <p>本年度前期は13回の授業を実施し、残り2回は授業中に課すものに相当する課題研究等を活用する。遠隔授業期間中の課題と資料はOneDriveからダウンロードすること。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。
テキスト	なし。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	人間や社会に対する好奇心が旺盛で、ゼミの仲間と一緒に、勉強もレクリエーションも真面目に取り組む学生を歓迎します。ゼミ生同志のリレーション作りを大事にしているゼミですので、積極的に参加できる方をお待ちします。
評価方法	授業への参加度（70%）、発表・課題提出状況（30%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ四（40840）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	自ら選択したテーマにつき卒業研究（論文）を仕上げることを目的とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	テーマ選択方法（卒業研究テーマになるものとならないものなど）	
	第3回	参考文献検索方法の習得・テーマ選択のための検索	
	第4回	卒業論文を作成できるテーマ選択	
	第5回	テーマ報告	
	第6回	マインドマップの描き方の説明	
	第7回	マインドマップ作成	
	第8回	作成したマインドマップのチェック	
	第9回	チェックを受けてマインドマップを修正する	
	第10回	マインドマップ完成・報告	
	第11回	論文用の文章の書き方（文語と口語の区別など）	
	第12回	論文構成とその例	
	第13回	テーマとマインドマップを元に章構成をする	
	第14回	章構成チェック・章構成の決定	
	第15回	夏休みの予定作成	
	第16回	夏休みの進捗状況報告	
	第17回	個別指導①先行研究の確認	
	第18回	個別指導②分析手法の確認	
	第19回	個別指導③第1節の提出（研究目的・研究背景・先行研究）	
	第20回	個別指導④第2節（またはそれ以上）の提出	
	第21回	初稿提出	
	第22回	修正指導①個別指導（ゼミの半分の学生対象）	
	第23回	修正指導②個別指導（ゼミの半分の学生対象）	
	第24回	報告用資料作成①PPTファイルの作り方・各自作業	
	第25回	報告用資料作成②各自作業およびチェック	

	<p>第26回 報告会①（ゼミの半分学生による発表）</p> <p>第27回 報告会②（ゼミの半分学生による発表）</p> <p>第28回 報告会での指摘の修正</p> <p>第29回 最終稿ファイルの提出・印刷</p> <p>第30回 卒業論文集の作成</p>
授業概要	論文作成のために必要な知識や技術の説明を受けた後、個別に作業を行っていただきます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	各回のテーマに従って月に1度報告のための作業をしていただきます。
テキスト	マインドマップの描き方および論文の書き方の書籍をゼミ内で指定します。 テキストは貸し出すので購入する必要はありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	卒業研究では論文を提出していただきます（期限厳守）。 研究報告を定期的に行うことで、プレゼンの仕方も学習します。
評価方法	提出課題20%，報告20%，卒業論文（期限内提出）60%。 無断欠席は1回につき20%のマイナス評価。 締切に遅れた卒業論文の評価はゼロ（＝留年決定）。
参考文献	
備考	Teams, ClassNoteBookを利用します。 社会情報学科からの公式発表に従って、第1回の講義に参加すること。

講義科目名称：専門ゼミ五（40850）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. デジタルアート／メディアアート／サブカルチャーなどの分野の作品研究を通して現代の表現について理解する。 2. 作品研究によって得た知識を元に作品制作を行う。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	文献講読(A) (映像表現)	
	第3回	ワークショップ(A1)	
	第4回	ワークショップ(A2)	
	第5回	文献講読(B) (イラストレーション)	
	第6回	ワークショップ(B1)	
	第7回	ワークショップ(B2)	
	第8回	文献講読(C) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第9回	ワークショップ(C1)	
	第10回	ワークショップ(C2)	
	第11回	文献講読(D) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第12回	ワークショップ(D1)	
	第13回	ワークショップ(D2)	
	第14回	作品研究論文の構想発表(1)	
	第15回	夏季の課題と習作の構想・計画	
	第16回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(1)	
	第17回	夏季の課題と習作のプレゼンテーションと講評(2)	
	第18回	作品研究に関するブックレビュー(1)	
	第19回	作品研究に関するブックレビュー(2)	
	第20回	作品研究論文の構想発表(2)	
	第21回	制作作品の構想発表	
	第22回	文献講読(E) (受講生の研究対象に応じて決定する)	
	第23回	ワークショップ(E1)	
	第24回	ワークショップ(E2)	

	第25回	作品研究論文の経過報告(1)
	第26回	制作作品の経過報告(1)
	第27回	作品研究論文の経過報告(2)
	第28回	制作作品の経過報告(2)
	第29回	制作作品の提出と講評
	第30回	卒業制作作品展の準備、作品研究論文の提出
授業概要	<p>卒業研究として研究論文の執筆ならびに作品の制作を行います。映像作品制作やデジタル音楽制作、あるいはいわゆるサブカルチャー研究を活動範疇とし、研究と制作の両方を実践的に学びます。前期はメディア文化史に関する文献講読、ならびに情報デザインと表現技法についてのワークショップを行います。夏期休業中には各人の興味に応じた課題（写真500枚以上あるいはイラスト50枚以上、その他応相談）ならびに習作の提出を課します。後期には各人の卒業制作作品と研究論文について、定期的に報告発表をしてもらいながらその最終的な完成を目指します。</p> <p>「メディア文化論」「メディア表現論」「コミュニケーションデザイン論」のうち、少なくとも2科目を既履修であることが望ましいです。</p> <p>【遠隔授業の方法】Teams（チームコード：nw982k1）を使用します。その他詳細はTeamsで指示します。</p>	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	論文と制作のどちらを主にするかは受講生の志向次第ですが、研究室の機関誌を年数回発行しますので、誌上で批評・習作・エッセイ・レビューなどを恒常的に発表してもらうことになります。	
テキスト	資料プリントを適宜配布します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	作品研究に関しては日頃からの作品鑑賞、作品制作に際しては日々の修練が求められます。またワークショップ形式での課題演習や集団制作などを頻繁に取り入れますので、デジタル加工技術の習得、主体性や創造性／想像力は勿論のこと、他の受講生との協調性・協働性も大きく問われます。	
評価方法	作品研究論文50%、制作作品50%。	
参考文献		
備考		

講義科目名称：専門ゼミ六（40860）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	問題の発掘と解決・取り組み方を身に着けること。卒業研究を行うことで研究の心構え、進め方等を身に着けること。		
授業計画	前期	① 【専門ゼミ】 ガイダンス (a) 前期の勉強会は受講生によるプレゼンで、後期には「データ分析」の勉強会を行う (b) 前期の勉強会では、配布の英語長文を学習し、1人2回程度のプレゼンを予定している。後期の勉強会では、卒業研究のデータ分析に必要な知識を学習する。	
	前期	② ～ ⑤ 【卒業研究】 (a) 卒業研究の進め方等の説明 ※以下は個別面談・対応方式で行う（週一回）	
	前期	⑥ ～ ⑫ 【専門ゼミ】 受講者のプレゼン 【卒業研究】 テーマの検討および決定	
	前期	⑬ ～ ⑮ 【卒業研究】 実地調査系の場合（例） ・資料の収集、調査の計画、予備調査の実施、本調査の検討等	
	後期	① 【卒業研究】 調査の実施	
	後期	② ～ ⑤ 【専門ゼミ】 統計処理ソフトRの紹介 【卒業研究】 ガイダンス	
	後期	⑥ ～ ⑩ 【卒業研究】 データの整理 【専門ゼミ】 多変量分析への理解を深める	
	後期	⑪ ～ ⑮ 【卒業研究】 データの分析 【専門ゼミ】 データのまとめ方、論文の執筆に必要なソフトの学習 【卒業研究】 論文執筆	
授業概要	【専門ゼミ】と【卒業研究】は異なった科目ではあるが、これらはセットになっていて、両方を履修することになる。このゼミでは次のように分けている。 ●【専門ゼミ】（4単位）勉強会。前期は英語または簿記で、後期はデータ分析の勉強会である。 ●【卒業研究】（2単位）卒業研究テーマを決めて進める。基本的な流れは研究調査、データ収集、分析、と論文執筆である		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本科目では、1.5時間の事前学習、3時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、技術・スキルの習得を目的としてい		

	るのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	ゼミの活動は、時間割のコマの時間に限りません。検定は、勉強会の軸になっていますので、その対策には多くの時間が必要になります。また、卒業研究では、調査と論文執筆などを自主的に行わなければならない作業が多々あるので、タイトなスケジュールの人は、自身の予定等と相談をして時間を確保するようにすることになります。
評価方法	詳細はゼミ紹介のガイダンス時に提示するが、概ね次のように取り組みを評価の対象とする。 ●【専門ゼミ・前期】 英語長論文の勉強会：プレゼンおよび、訳文の課題（15回） ●【専門ゼミ・後期】 データ分析：定期課題（15回） ●【卒業研究】卒業研究の成果物（卒業論文）
参考文献	初回に紹介する。
備考	【専門ゼミ】と【卒業研究】の授業内容は連動しているが、科目と単位は異なる。

講義科目名称：専門ゼミ七（40870）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】卒業研究のテーマに対して、自ら取り組み、考え、解決し、成果を出す。 【到達目標】実社会において必要な「与えられた仕事に対して、主体的に取り組み、考え、解決し、結果を出す力」を活用できる。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	卒業研究テーマの選定	
	第3回	卒業研究テーマの決定	
	第4回	卒業研究テーマ報告会	
	第5回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第6回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第7回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第8回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第9回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第10回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第11回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第12回	卒業研究テーマに関連する先行研究の紹介（グループ1） 研究テーマに関連する先行研究の論文の紹介資料をパワーポイントなどで作成し、ゼミで発表を行う	
	第13回	卒業研究テーマに関連する先行研究の紹介（グループ2） 研究テーマに関連する先行研究の論文の紹介資料をパワーポイントなどで作成し、ゼミで発表を行う	
	第14回	中間報告会（グループ1） 卒業研究の進捗状況などの発表を行う	
	第15回	中間報告会（グループ2） 卒業研究の進捗状況などの発表を行う	
	第16回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第17回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第18回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第19回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第20回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第21回	卒業研究テーマに基づき研究、調査等の遂行	
	第22回	卒業論文執筆、個別指導	
	第23回	卒業論文執筆、個別指導	
	第24回	卒業論文執筆、個別指導	

	<p>第25回 卒業論文執筆、個別指導</p> <p>第26回 卒業論文執筆、個別指導</p> <p>第27回 卒業論文執筆、個別指導</p> <p>第28回 卒業論文提出 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出。提出日時は厳守。</p>
授業概要	情報や地理情報、社会科学を主に卒業研究のテーマとして取り扱う。そして各々が選択したテーマに基づいて卒業研究を進めていく。自分自身が立てた問いを卒業研究のテーマとしても構わない。遠隔授業時はTeamsを使用します。必要に応じてTeamsに資料をアップロードするので確認してください。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし専門ゼミ七の運営を行う。
時間外学習	ゼミで学んだ内容を深く理解するには時間外学習が不可欠である。【事前・事後学修】として文献研究や報告会発表用のスライド資料の作成準備などを自主的に進めておくことはもちろんのこと、ゼミや卒業研究に必要な各種成果物の作成は指定された期日までに取り組み提出することが挙げられる。
テキスト	石井一成「ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方」, ナツメ社, 1,100円+税 野田直人「小論文・レポートの書き方 パラグラフ・ライティングとアウトラインを鍛える演習帳」, 人の森, 900円+税 などは一読しておくこと。また必要な資料は、適宜、配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	専門ゼミでは卒業研究のテーマに積極的にチャレンジし主体的に取り組む必要がある。卒業研究は計画的に進めてほしい。また月次報告会、中間報告会、卒業研究発表会を実施する。各自で研究を計画的に進め、卒業研究の成果を報告すること。また教員を含むゼミ所属メンバーへの報告・連絡・相談を徹底してほしい。
評価方法	報告会などでの報告を30%、卒業研究に関わる成果物など(卒業論文、報告会での報告資料、その他指定された成果物)を70%として評価する。
参考文献	
備考	過去に専門ゼミ七に在籍していたゼミ生の卒業研究をC号館1階に掲示している。 卒業論文、プレゼンテーション、その他指定された成果物の提出締め切り日時は厳守。

講義科目名称：専門ゼミⅧ(40880)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 卒業研究（論文）を作成するために必要な知識と技術を習得する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション ※遠隔授業 ・自己紹介等。	・卒業研究計画書の作成の仕方について確認をする。
	第2回	卒業研究の関心テーマについての概要について学ぶ ※遠隔授業 ・卒業研究計画書の作成①（実際に自分で卒業研究計画書を作成する）。	
	第3回	関心テーマに関する資料・論文のまとめを発表し討論する ※遠隔授業 ・卒業研究計画書の作成②（実際に自分で卒業研究計画書を作成する）。	
	第4回	収集した資料について発表し討論する①（新聞等） ※遠隔授業 ・卒業研究計画書の作成③実際に自分で卒業研究計画書を作成する）。	
	第5回	収集した資料について発表し討論する②（雑誌等） ※遠隔授業 ・卒業研究計画書の作成④（実際に自分で卒業研究計画書を作成する）。	
	第6回	収集した資料について発表し討論する③（実践事例等）	
	第7回	収集した資料について発表し討論する④（先行研究等）	
	第8回	研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ①（発表）	
	第9回	研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ②（質疑応答）	
	第10回	研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ③（修正）	
	第11回	研究テーマに関する問題意識と目的のまとめ④（再発表）	
	第12回	事例検討会①（幼児期の課題）	
	第13回	事例検討会②（学齢期の課題）	
	第14回	事例検討会③（青年期の課題）	
	第15回	研究計画の立案①（研究目的）	
	第16回	研究計画の立案②（研究方法）	
	第17回	資料・データ等の収集と進捗状況の報告①（データ等の収集方法の確認）	
	第18回	資料・データ等の収集と進捗状況の報告②（データ等の紹介と結果考察）	
	第19回	資料・データ等の収集と進捗状況の報告③（質疑応答）	
	第20回	資料・データのまとめと卒業論文構成の検討	
	第21回	資料・データ等の収集と進捗状況の報告④（データのまとめ方の確認）	
	第22回	資料・データ等の収集と進捗状況の報告⑤（データの分析方法）	
	第23回	資料・データの分析①（結果考察）	

	<p>第24回 資料・データの分析②（結果考察の紹介）</p> <p>第25回 論文第2章「方法」第3章「結果」検討</p> <p>第26回 論文第4章「考察」検討</p> <p>第27回 論文第5章「まとめと今後の課題」検討</p> <p>第28回 論文まとめ①（論文様式の確認）</p> <p>第29回 論文まとめ②（誤字脱字の確認）</p> <p>第30回 論文まとめ③（印刷、製本）</p>
授業概要	<p>1. 人間の心理や発達、教育に関心のある方を希望します。</p> <p>・授業資料（パワポ資料等）はTeamsにアップしておくので、講義資料をダウンロードしてから授業に臨むこと。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	新聞やニュースを毎日チェックし、地域を取り巻く問題に興味・関心を持つこと。
テキスト	前期はテーマの絞り込みとそのテーマにかかわる基本的な事項の理解を目指します。当番を決めて、文献や資料をレジюмеにし、発表してもらいます。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>まず知りたい、調べたいことについて考えておいてください。そして、一度決めたテーマについては簡単にあきらめずに、根気強く調べてください。また、人の前で考えたことを発表したり、議論したりすることは自分を高めることにつながりますので、積極的に取り組んでください。</p> <p>学生の興味を引くように身近な事例を多く取り入れながらゼミを進めていきます。</p>
評価方法	授業への参加度（40%）、論文等提出物（60%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：専門ゼミ九（40890）

授業コード：

英文科目名称：—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	4	選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業研究（論文）の作成に必要な知識やスキルを身に付ける。		
授業計画	第1回	研究の進め方	
	第2回	研究の進め方	
	第3回	研究の進め方	
	第4回	文献検索の方法	
	第5回	文献講読	
	第6回	文献講読	
	第7回	文献講読	
	第8回	文献講読	
	第9回	文献講読	
	第10回	文献講読	
	第11回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第12回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第13回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第14回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第15回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第16回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第17回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第18回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第19回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第20回	研究テーマの設定および実験、測定	
	第21回	論文作成	
	第22回	論文作成	
	第23回	論文作成	
	第24回	論文作成	
	第25回	論文作成	

	第26回	論文作成
	第27回	論文作成
	第28回	論文作成
	第29回	論文作成
	第30回	論文作成
授業概要	スポーツの競技力向上や健康増進のための方法について、動作分析や実験を通して明らかにしていく。前期中に文献収集を通してテーマを決め、実験（または調査）、分析まで行う。後期は執筆作業を中心に進める。	
実務経験及び授業の内容		
時間外学習	指定した文献や興味のある学術論文を探して読む。	
テキスト	各自のテーマに即した文献や資料を指示します。	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	スポーツや健康について興味があり、科学的な視点から追求してみたい学生を歓迎します。	
評価方法	卒業研究論文（70%）、授業への参加度（30%）	
参考文献		
備考		